

学園都市づくり交流会議では、東広島市における学生等の学術研究活動を促進し、大学と地域が連携したまちづくりの推進に寄与することを目的に東広島市の地域課題を研究した論文を募集・表彰する「地域課題研究懸賞論文事業」を実施しています。

この度、令和元年度の受賞論文について、厳正な審査の結果、6件決定しました。

なお、受賞論文については、著者個人の意見であり、学園都市づくり交流会議及び東広島市の公式見解ではありません。

## 令和元年度地域課題研究懸賞論文 受賞論文（最優秀）

### 研究課題名（テーマ）

東広島市におけるバリアフリーに関する研究

—視覚障がい者への聞き取り調査をもとにした誘導用ブロックの調査を中心に—

広島大学 教育学部 第二類 山本 茂将

### (3) 調査結果

#### i 八本松駅前

八本松駅周辺は八本松駅前広場のみ誘導用ブロックが設置されている。八本松駅前広場の歩道全域に設置されており、全長約 190m であった。ブロックは全て埋め込み型、色は⑬であった。

ブロックが壊れている箇所は広島中央農協八本松支店前の 1 箇所である。破損の原因は広島中央農協八本松支店前横に月極駐車場があり、車の出入りがあるためであると考えられる。

表 3 八本松駅前の誘導用ブロック

合 計	189.9
(m)	
埋めこみ	189.9
色⑬	189.9

現地調査をもとに作成

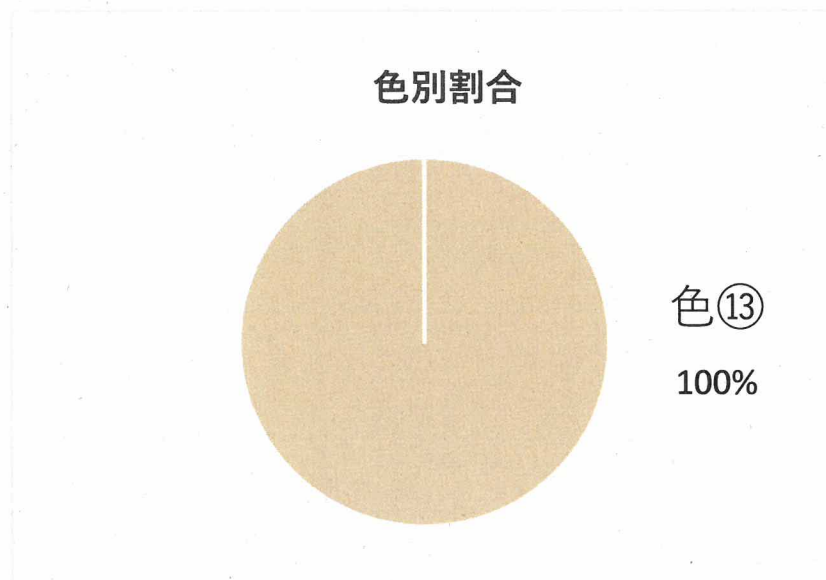


図 2 八本松駅前の誘導用ブロックの色別割合

---

xix 「ハンディキャップと都市空間—地理学と心理学の対話—」 2006

xx 「目の不自由な方に音の出る信号機を」を合言葉に、12月24日の正午からの24時間チャリティ番組を放送（RCC ラジオ・チャリティ・ミュージックソン HP より <http://radio.rcc.jp/musicthon/>）

xxi 東広島市視覚障害者福祉協会及び東広島市建設部維持課への聞き取りより

xxii 色彩ヘルパー

xxiii ブロックおおよそ10枚程度を目安にした

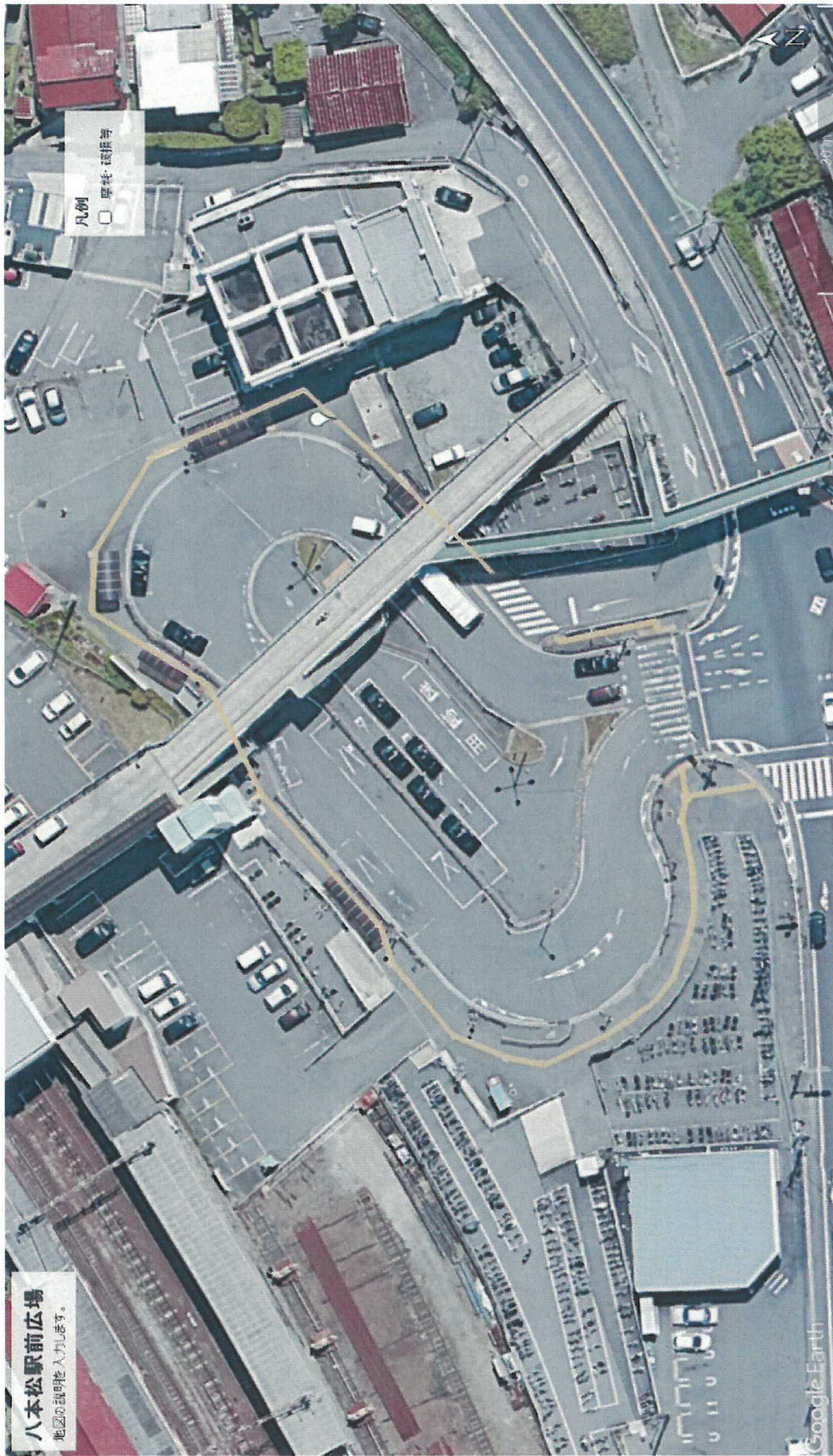


図3 八本松駅前広場における誘導用ブロック (現地調査をもとに作成)



## ii 寺家駅周辺

寺家駅周辺の誘導用ブロックの全長は約 656m であった。種類別で見ると、埋めこみ型が約 604m(92%)、貼り付け型が約 52m(8%)であり、色別で見ると、色⑩が約 604m(92%) 色⑫が約 40m(6%)、色⑧が 12m(2%)であった。

横断歩道口の誘導方向に関して、駅南西の西条町寺家交差点から駅前広場にかかる橋に誘導方向が誤っている箇所が2箇所あり、この2箇所はそれぞれ車道方向に誘導している。Google Earth の画像を見ると、2017年6月時点では、この2箇所は、横断歩道の横断方向に正しく誘導している。この2箇所が橋と道路のつなぎ目の部分に貼り付けられたブロックであることを踏まえると、2017年6月以降に一度誘導用ブロックが剥がれ、貼り換えが行われた際に誤った誘導方向にブロックが設置されたものと考えられる。

また、寺家駅北口交差点は、北口に最も近い横断歩道口には誘導用ブロックが設置されているものの、東西方向の横断歩道口には誘導ブロックが設置されていない。

表4 寺家駅周辺における誘導用ブロック

合計 655.9			
埋めこみ	603.5	貼り付け	52.4
色⑩	603.5	色⑫	40.3
		色⑧	12.2

現地調査をもとに作成

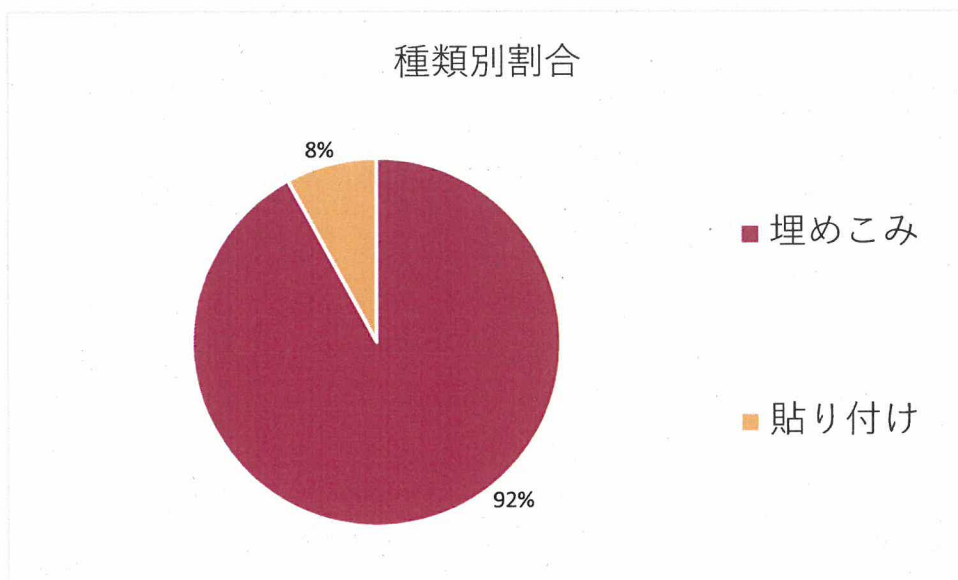


図4 地家駅駅前広場における誘導用ブロック種別別割合

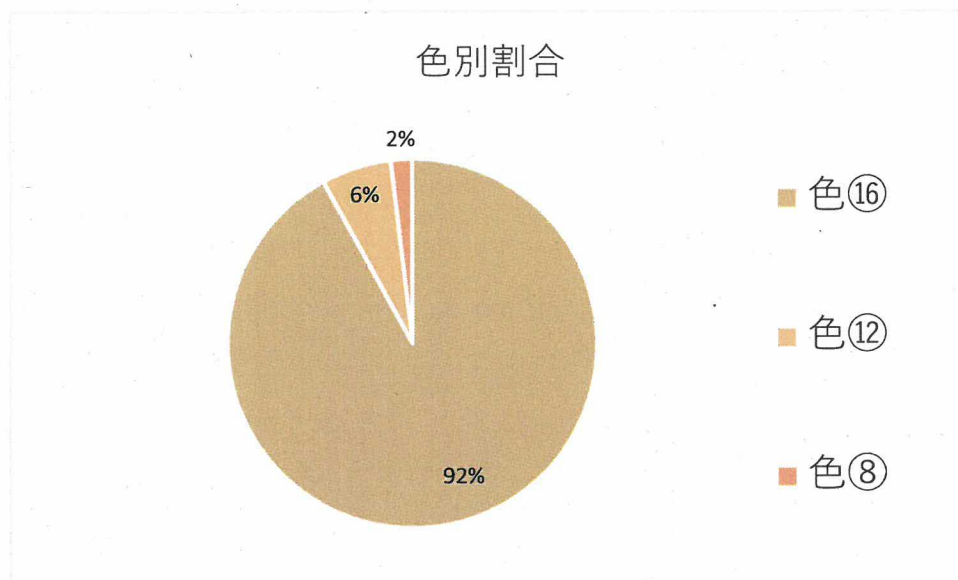


図5 寺家駅周辺における誘導用ブロック色別割合

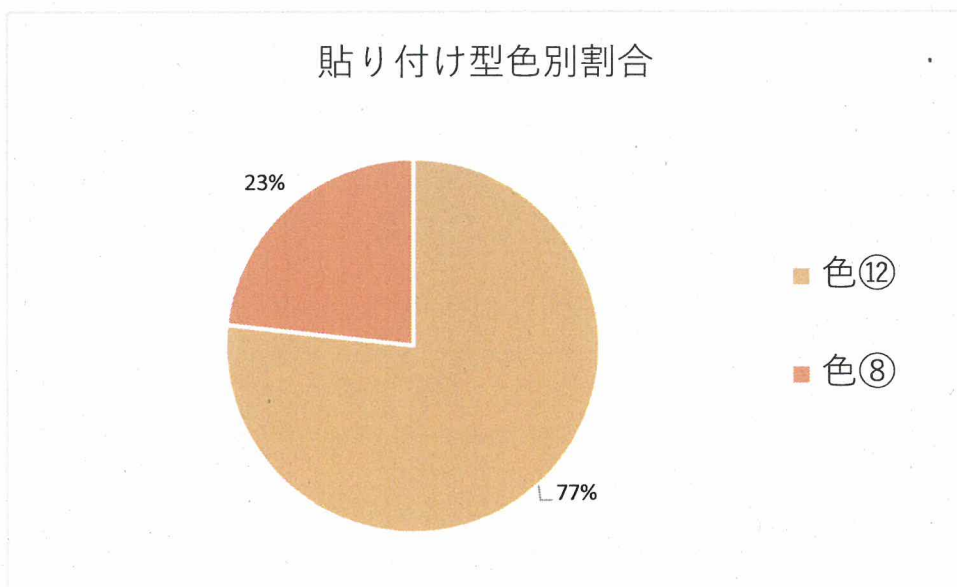


図6 寺家駅周辺における貼り付け型誘導用ブロック

色別割合



図7 誘導方向が誤っている誘導用ブロック

(南口駅前広場側の歩道)

筆者撮影



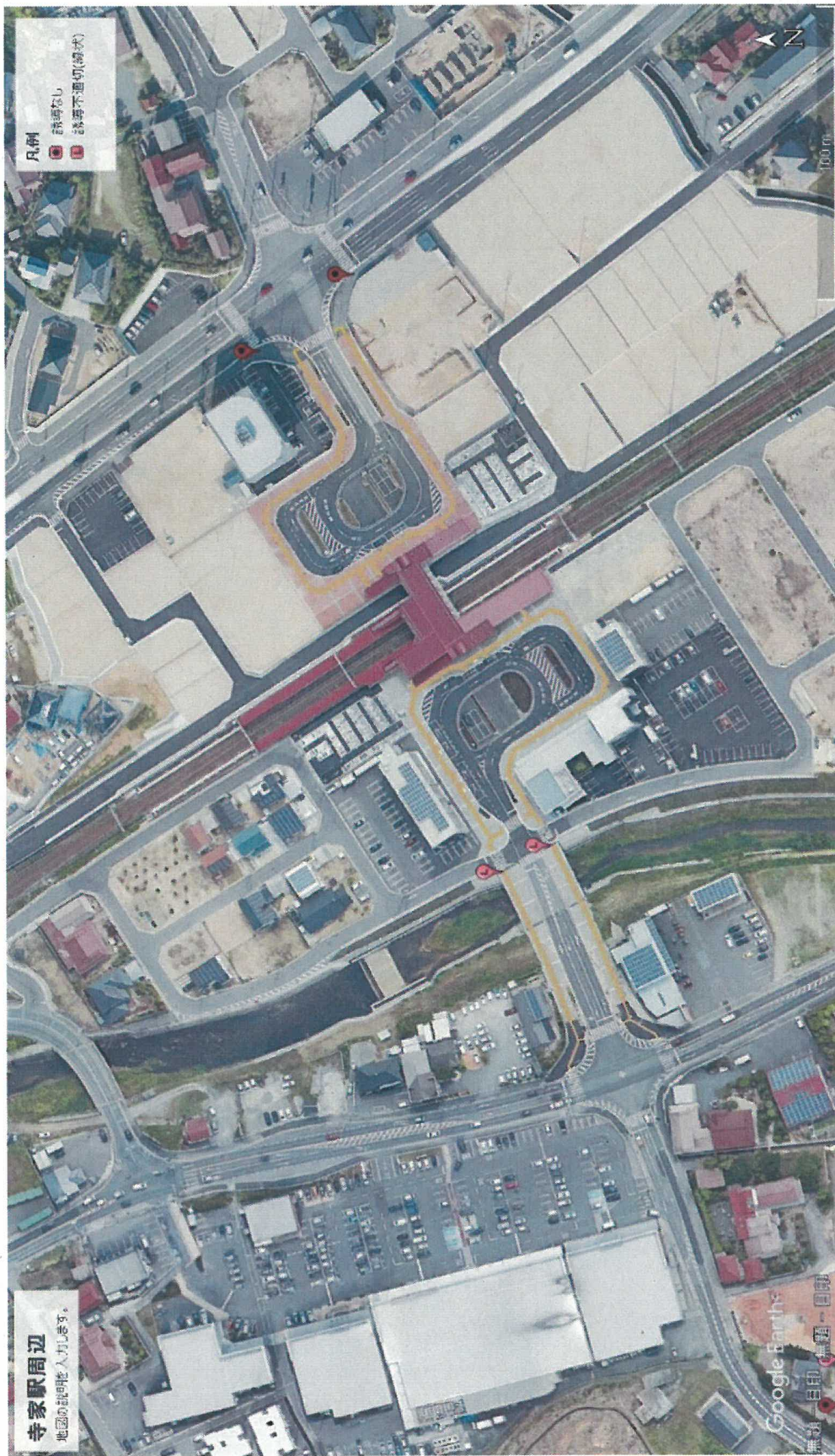


図8 寺家駅周辺における誘導用ブロック  
(現地調査をもとに作成)



### iii 西条駅周辺

西条駅周辺広域の調査範囲においては、まず、調査範囲全体の分析をしたのちに、道路ごとの分析を行う。

今回の西条駅周辺広域の調査範囲(図 11)において、約 13km にわたり誘導用ブロックが設置されており、種類別に見ると、埋めこみ型が約 8.4km(65%)、貼り付け型が約 4.6km(35%)であった。

色別で見ると、色⑬約 3,930m(30%)、色⑭約 2,550m(20%)、色⑤約 2,020m(15%)、色⑰約 1,340m(10%)、色⑱約 760m(6%)、色⑧約 649m(5%)、色⑩約 560m(4%)、色①約 460m(4%)、その他約 770m(6%)であった。

ブロックの摩耗・破損等の箇所は 92 箇所であった。そのうち、75 箇所(約 82%)が中央巡回線、大坪交差点以東の一町田吉行線及び大坪交差点南の歩道に集中している。

横断歩道口の誘導方向に関して、誘導方向に誤りのある箇所は 42 箇所であった。そのうち、点状ブロックの誘導方向の誤りが 27 箇所、線状ブロックの誘導方向の誤りが 15 箇所であった。

音響信号機が設置されている交差点はブルーバールの西条駅南口交差点、中央生涯学習センター西交差点、市役所西交差点、東広島警察署前交差点、栄町 4 号線の西条岡町交差点、中央巡回線の仲伏沖交差点及び国道 375 線の御菌宇(北)の計 6 箇所であった。仲伏沖交差点はゆめタウン東広島付近であり、御菌宇(北)交差点はフジグラン東広島店の付近であることを踏まえると、西条駅周辺及び大型の商業施設付近を中心に音響信号機の整備が進んでいるといえる。なお、市役所西交差点及び西条岡町交差点につながる岡町交差点については、歩車

分離式の信号であるため、音響信号機は設置されていないと考えられる。

表5 西条駅周辺における誘導用ブロック

合計 13034.8 (m)			
埋めこみ	8447.4	貼り付け	4587.5
色⑬	2915.0	色⑤	1958.8
色⑳	2551.3	色⑬	1016.2
色⑰	1338.7	色⑧	638.7
色⑱	755.6	色①	443.8
色⑩	250.4	色⑩	313.5
色㉓	191.7	色⑫	63.7
色㉗	92.2	色⑭	48.8
色⑱	86.2	色②	48.1
色㉔	82.6	色⑪	35.2
色⑤	57.4	色⑯	20.7
色⑮	46.5		
色⑯	37.5		
色⑨	16.2		
色①	16.0		
色⑧	10.2		

現地調査をもとに作成

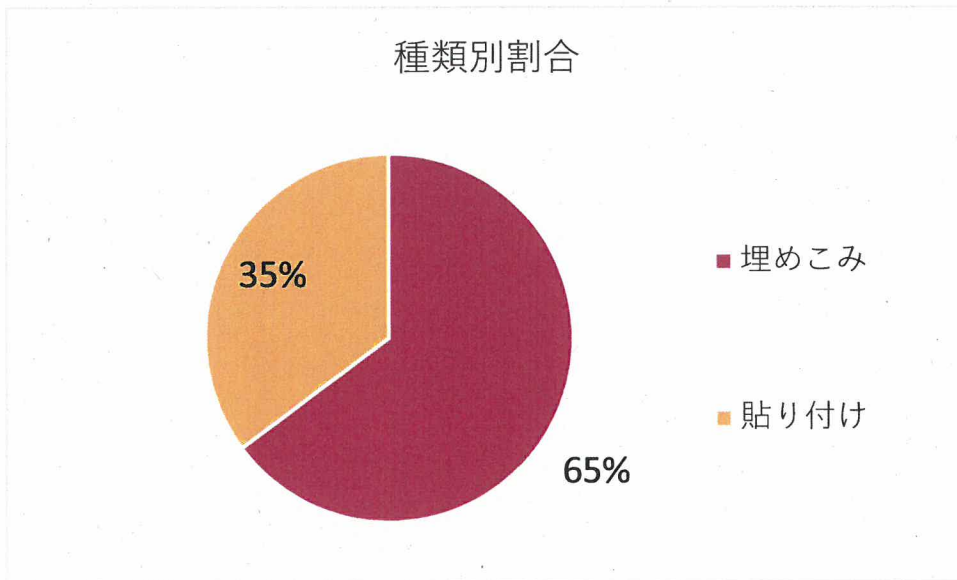


図 9 西条駅周辺の誘導用ブロック種別別割

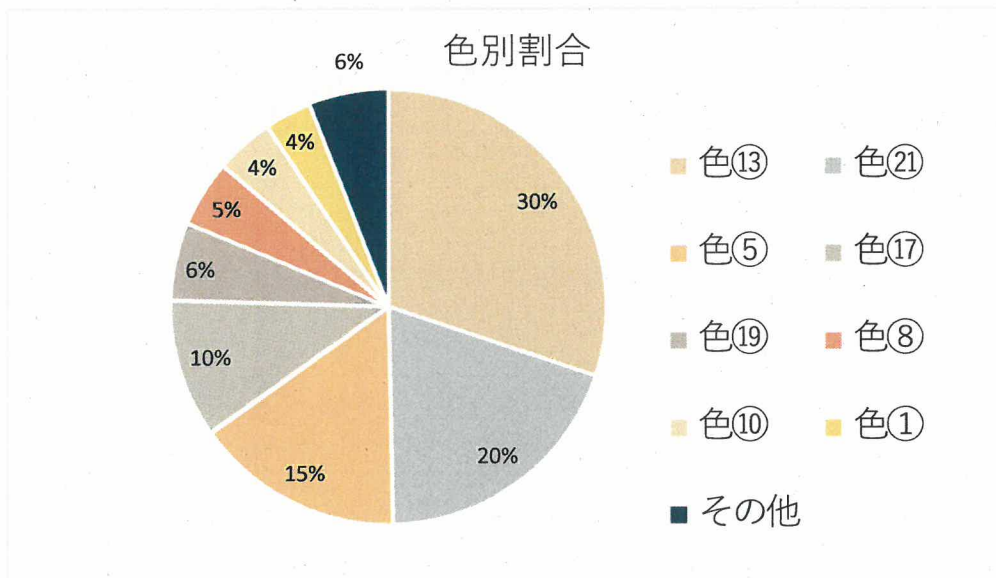


図 10 西条駅周辺の誘導用ブロック色別割

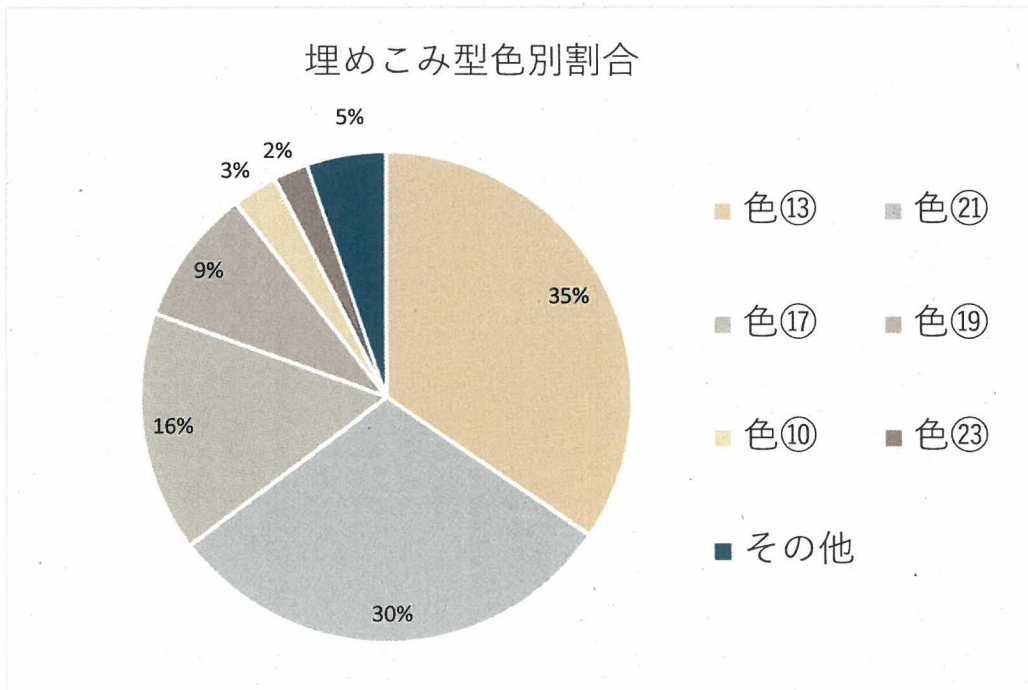


図 1 1 西条駅周辺の誘導用ブロック

埋めこみ型色別割合

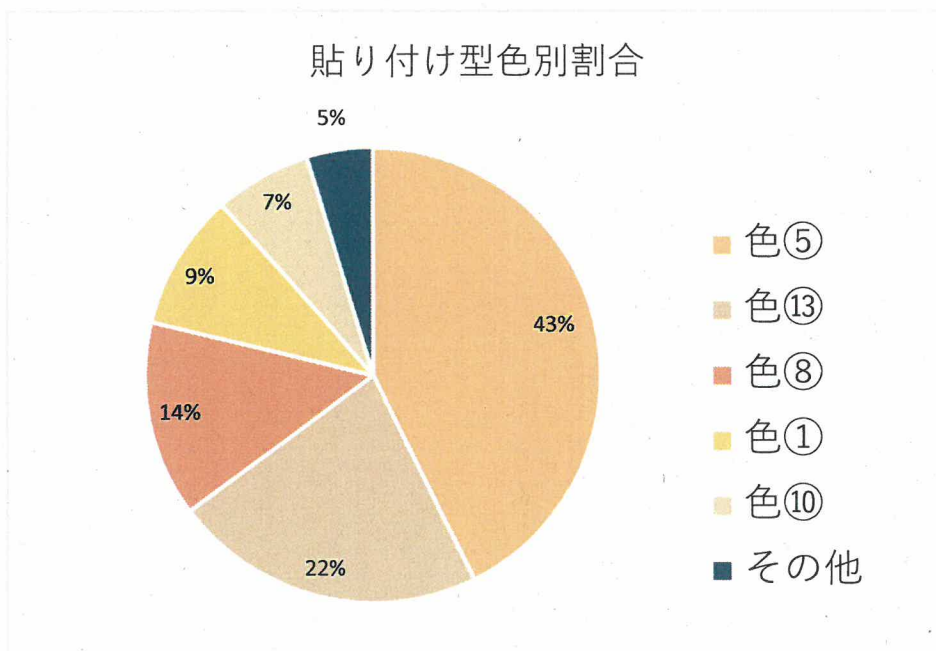


図 1 2 西条駅周辺の誘導用ブロック

貼り付け型色別割合





図 1 3 西条駅周辺の誘導用ブロック(調査範囲)

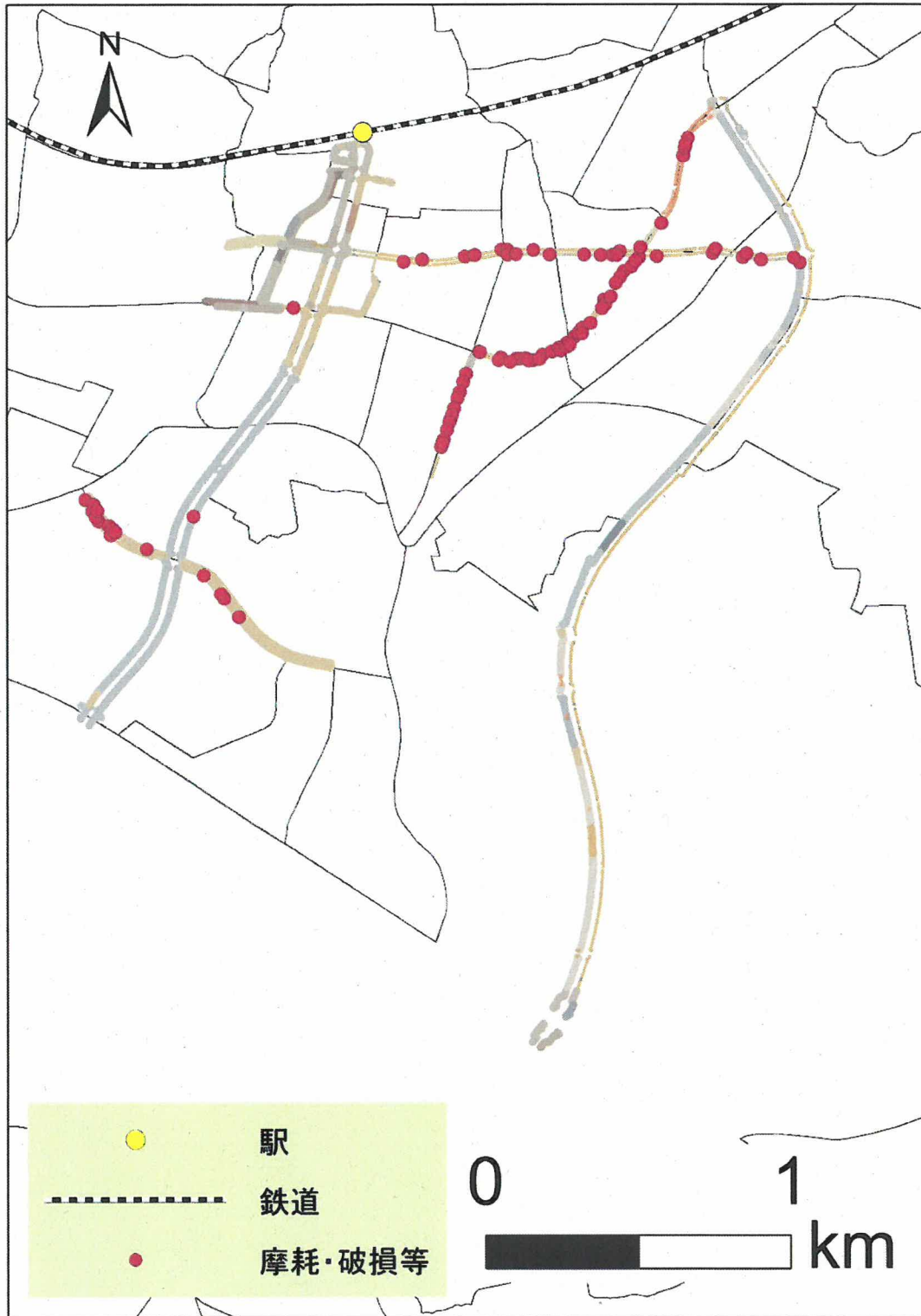


図 1 4 西条駅周辺の誘導用ブロックの摩耗・破損等の箇所

## ① 駅前広場及びブルーバール

駅前広場及びブルーバールにおいて、誘導用ブロックは約 4.3km にわたり設置されており、種類別で見ると、全域にわたり<sup>xxiv</sup>埋めこみ型の誘導用ブロックが設置されていた。

色別で見ると、色⑳約 2,540m(59%)、色㉑約 892m(21%)、色㉒約 650m(15%)、色㉓約 130m(3%)、色㉔86m(2%)であった。色㉑に関して、東広島警察署前交差点以南のブルーバールほぼ全域が色㉑であり、歩道と同系色になっている。

横断歩道口の誘導方向に関して、点状ブロック 8箇所及び線状ブロック 1箇所に誘導方向の誤りがあることが明らかとなった。点状ブロックの 8箇所のうち、5箇所が御菌宇ランプ交差点付近に集中している。残りの 3箇所は、市役所西交差点の 2箇所及び東広島警察署交差点の 1箇所である。

ブロックの凹凸がなくなっている箇所は、西条小学校(西)交差点と江熊交差点のほぼ中間の東側歩道上である。この箇所は木の根元部分であり、土が覆いかぶさったために凹凸が無くなったと考えられる。

表 6 駅前広場及びブルーバールの誘導用ブロック

合計	4298.6	(m)
埋めこみ	4298.6	
色⑳	2540.2	
色㉓	891.7	
色㉗	652.8	
色㉙	127.8	
色㉚	86.2	

現地調査をもとに作

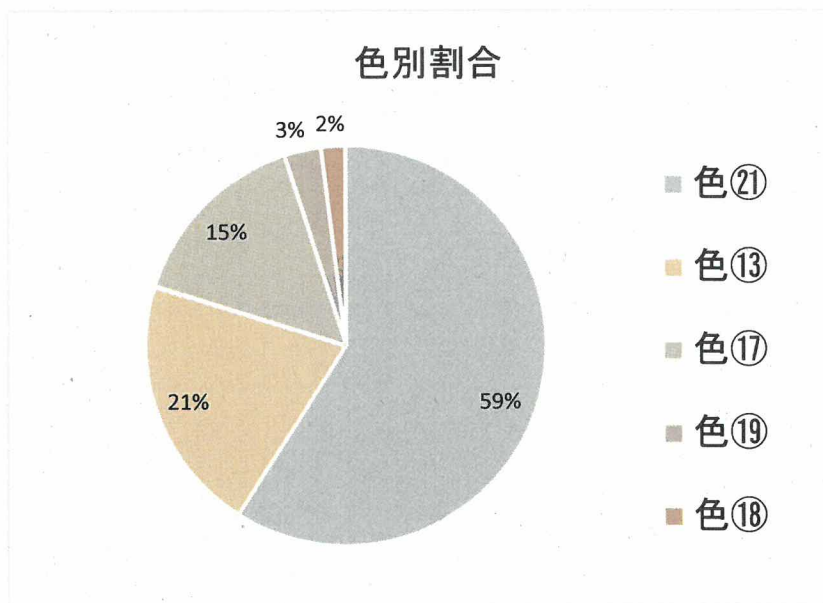


図 1 5 駅前広場及びブルーバールの誘導用ブロック色別割合

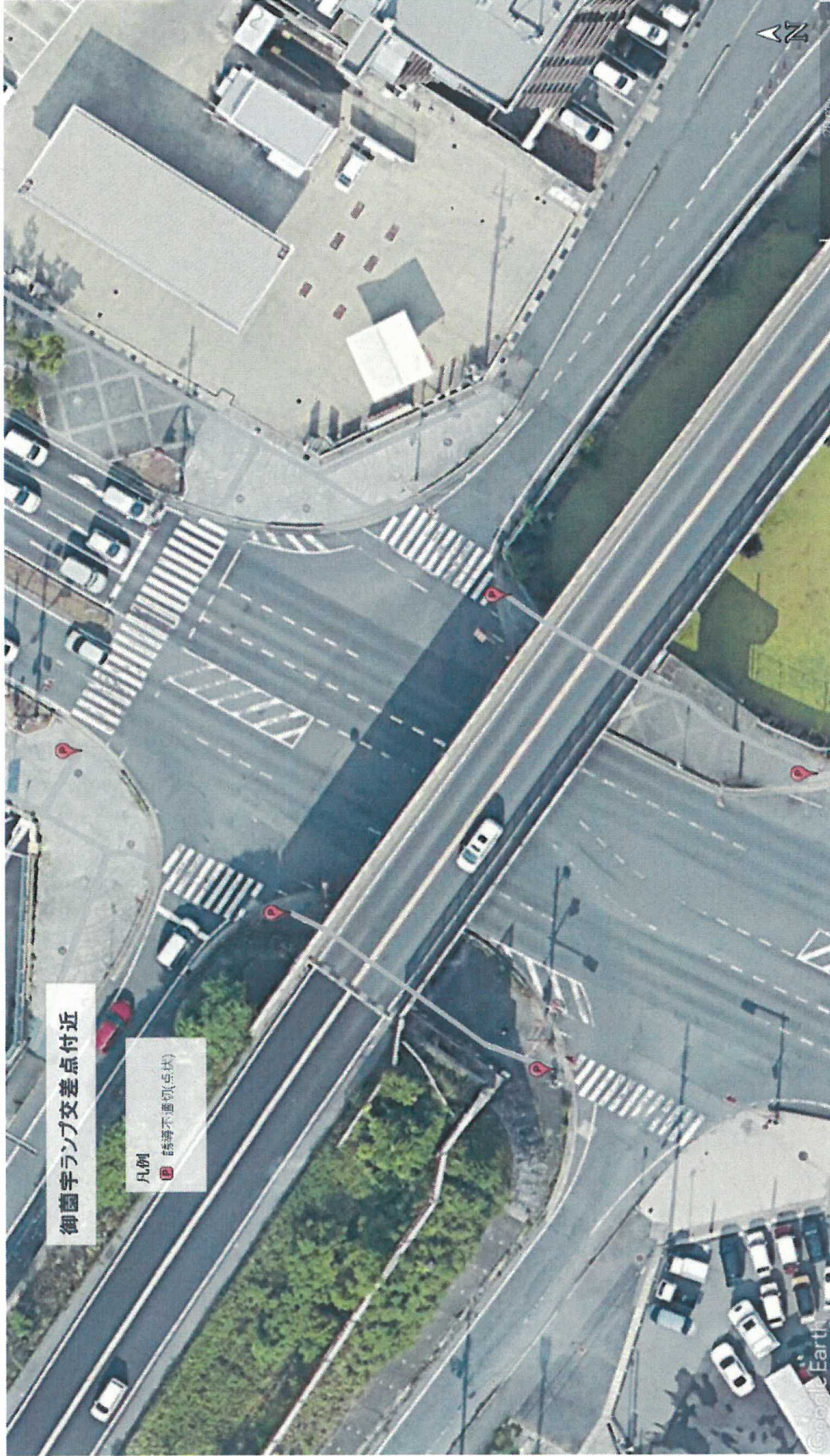




図 1 6 東広島警察署交差点の点状ブロック誘導方向の誤り

筆者撮影

xxiv 西条中央公園横など貼り付け型のブロックも設置されていたが、数枚程度であったため、計測上全域とした。



(現地調査をもとに作成)

図 1 7 御園宇交差点付近の誘導用ブロック



(追記)

2020年1月20日現在、プールバールにおいて、歩道の舗装を修繕する工事が行われており、それに伴い、誘導用ブロックの整備も行われている。これまで市役所西交差点東側の横断歩道口の誘導方向に誤りがあったが、現在は、図19のとおり、線状ブロックの誘導方向と横断歩道  
の方向が一致していることを確認した。(点状ブロックの方向は誤って設置されている。) (2020年1月20日)

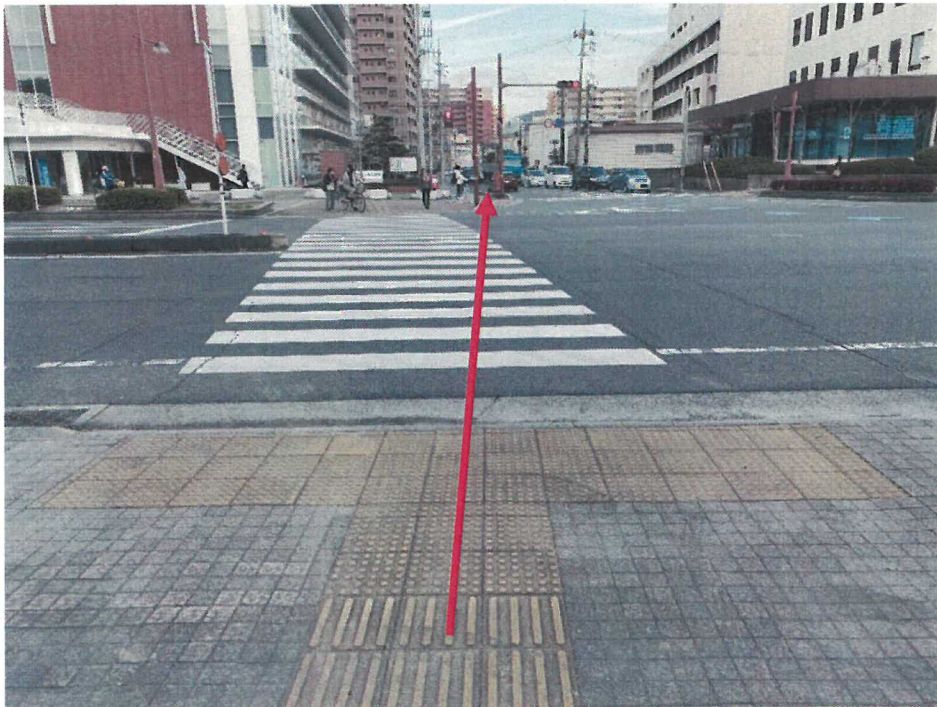


図 1 8 市役所西交差点の横断歩道

誘導用ブロック誘導方向の誤り (2020年1月9日撮影)



図 1 9 市役所西交差点の横断歩道

誘導用ブロック誘導方向の修正 (2020年1月20日撮影)



②栄町4号線及び市役所以西の一町田吉行線

栄町4号線及び市役所以西の一町田吉行線において、誘導用ブロックは約1,640mにわたり設置されている。種類別で見ると、埋めこみ型が約1,580m(96%)、貼り付け型が約62m(4%)であった。

色別で見ると、色⑰約540m(33%)、色⑱約520m(32%)、色㉓約192m(12%)、が主である。これらの色は黄色よりも灰色に近く、歩道と同系色となり見えにくいものと想定される。

横断歩道口の誘導用ブロックに関して、栄町4号線の歩道は、第Ⅲ章のとおり、東広島移動円滑化基本構想の道路特定事業にもとづき整備されたものと考えられるが、歩道整備の際、横断歩道口の誘導用ブロックは、横断歩道の方向どおりに設置されたと考えられる。

一町田吉行線において、誘導用ブロックの摩耗が市役所西交差点付近の北側歩道に1箇所確認できた。

表7 駅前広場及びプールパールの誘導用ブロック

合計 1642.1		(m)	
埋めこみ	1579.4	貼りつけ	62.7
色⑰	541.0	色⑱	46.5
色⑱	521.4	色⑨	16.2
色㉓	191.7		
色⑬	150.5		
色㉔	92.2		
色㉕	82.6		

現地調査をもとに作成

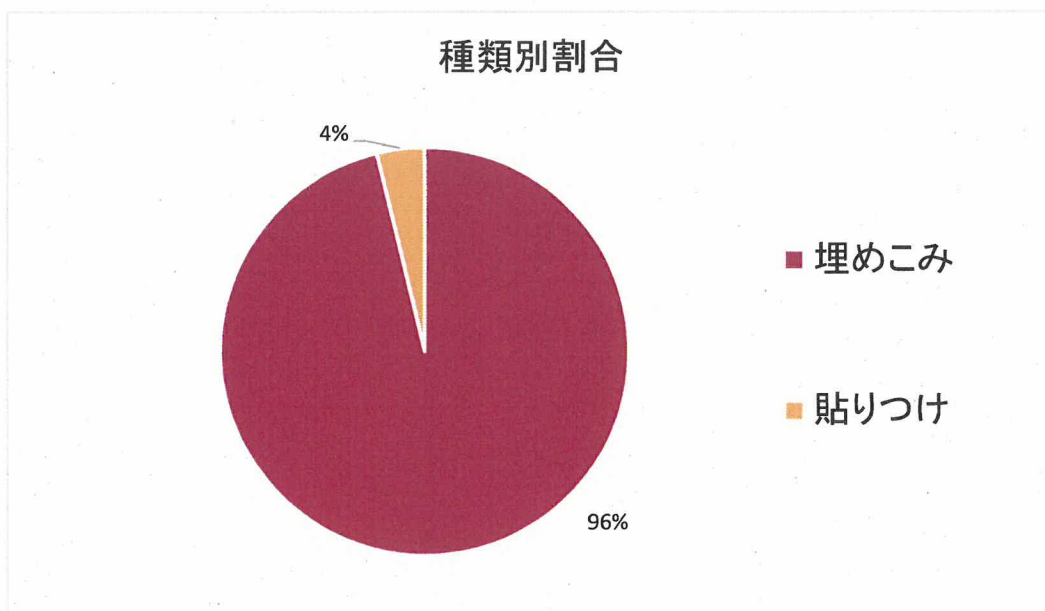


図 2 0 ㊦の誘導用ブロック種別別割合

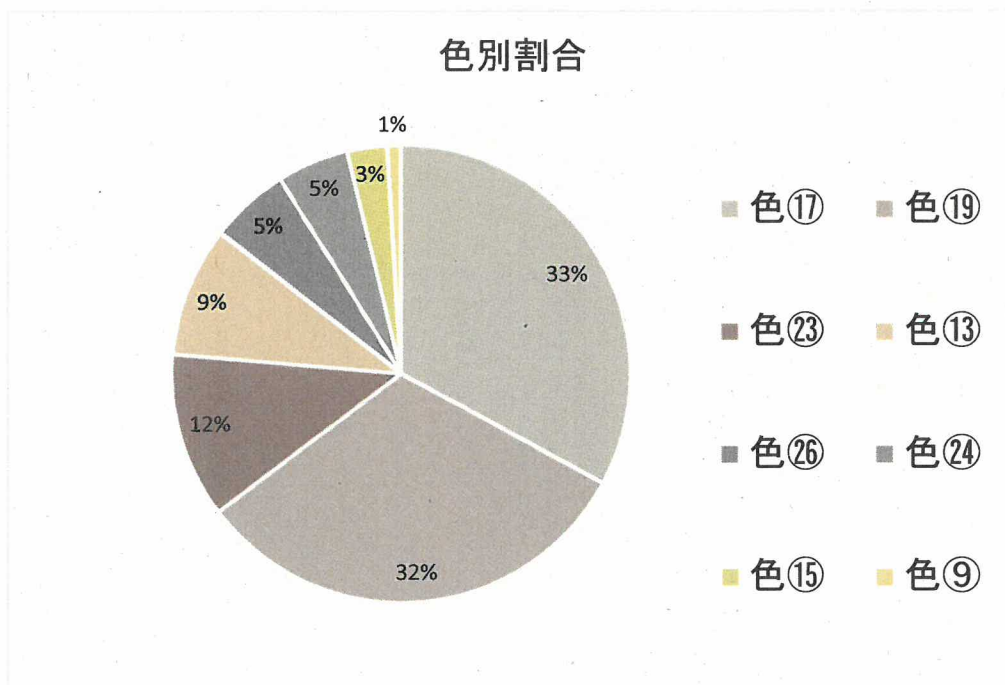


図 2 1 ㊦の誘導用ブロック色別割合

### 埋めこみ型色別割合

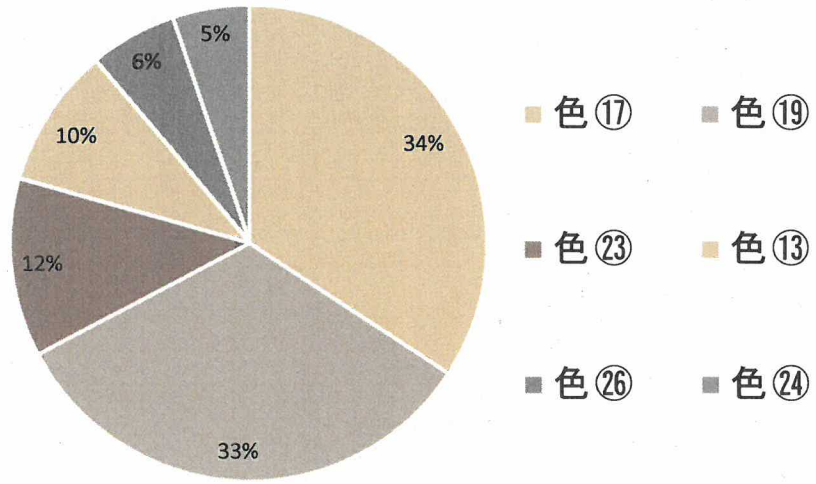


図 2 2 ㊸の誘導用ブロック埋めこみ型色別割合

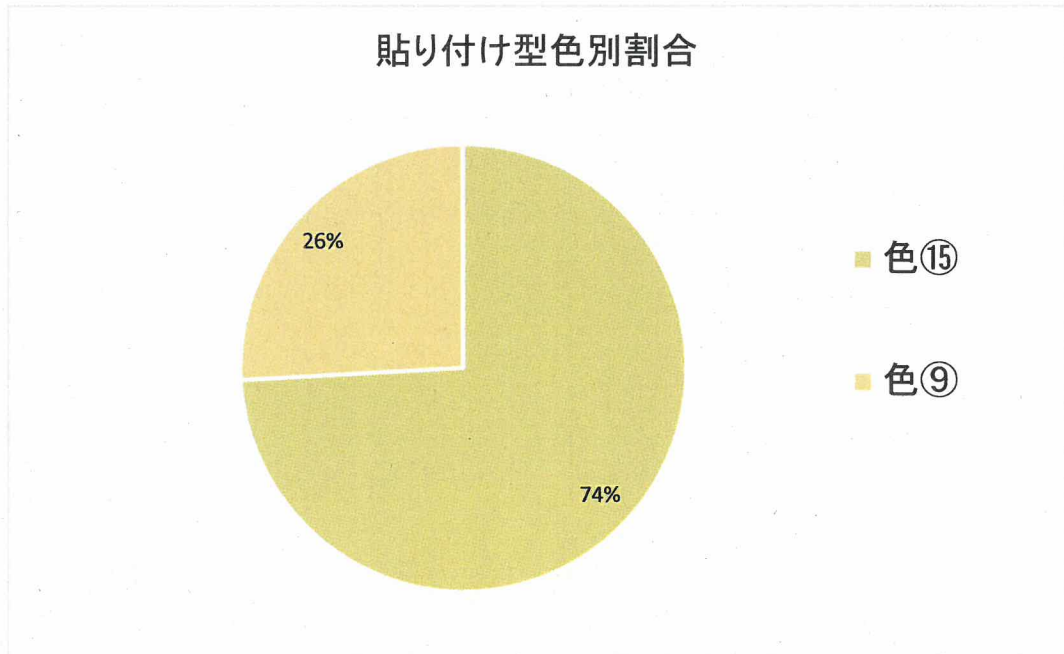


図 2 3 ㊸の誘導用ブロック貼り付け型色別割合





図 2 4 ②及びその周辺の誘導用ブロック

現地調査をもとに作成

### ③市役所以東の一町田吉行線及び大坪交差点南側

誘導用ブロックは約 2,420m にわたり設置されている。種類別に見ると埋めこみ型が約 110m(4%)、貼り付け型が約 2380m(96%)であった。ブルーパールや栄町4号線など埋めこみ型の割合が高い道路が多い中、貼り付け型の誘導用ブロックが 90%を超えていることがこの範囲の特徴であるといえる。

色別で見ると、色⑧ 約 620m(26%)、色⑬約 585m(24%)、色①約 422m、(17%)、色⑤約 374m(16%)、色⑩254m(11%)が主である。埋めこみ型の色別割合は、色⑰と色⑦で 80%を超えているが、黄色よりも灰色に近く、歩道と同系色となり見えにくいものと想定される。それとは反対に、認識がしやすいと想定される色⑧、色⑬、色①、色⑤及び色⑩の 5 色で貼り付け型ブロックの色別割合の 97%を占めており、この範囲の貼り付け型のブロックは認識しやすいと考えられる。また、貼り付け型ブロックが種類割合の 96%を占めていることを踏まえると、この範囲の誘導用ブロックは認識しやすいといえる。

前述のとおり、西条駅周辺広域の今回の調査範囲において、ブロックの摩耗・破損等の箇所は 92 箇所であったが、そのうち 52 箇所(約 57%)が市役所以東の一町田吉行線及び大坪交差点南側に集中している。東広島市建設部維持課に聞き取りを行い、埋めこみ型のブロックに比べ、貼り付け型のブロックは耐久性が劣ることが明らかになったが、前述のとおり、この範囲の誘導用ブロックの 96%が貼り付け型であることが摩耗・破損等の箇所が多い要因であると考えられる。また、摩耗・破損等が確認できた場所は、ゆめタウン東広島店の駐車場入り口及びマンションの駐車場入り口など車の出入



りの多い場所である。車の出入りが繰り返されることにより、誘導用ブロックが傷んでいることが考えられる。

現地調査をもとに作成

表 8 市役所以東の一町田吉行線及び大坪交差点南側の  
誘導用ブロック

合計 2417.1		(m)	
埋めこみ	108.4	貼り付け	2377.5
色⑰	56.3	色⑧	620.4
色⑦	36.9	色⑬	569.7
色⑬	15.2	色①	421.5
		色⑤	374.3
		色⑩	253.9
		色⑭	38.0
		色⑫	14.6
		色②	11.2
		色⑪	5.0

現地調査をもとに作成

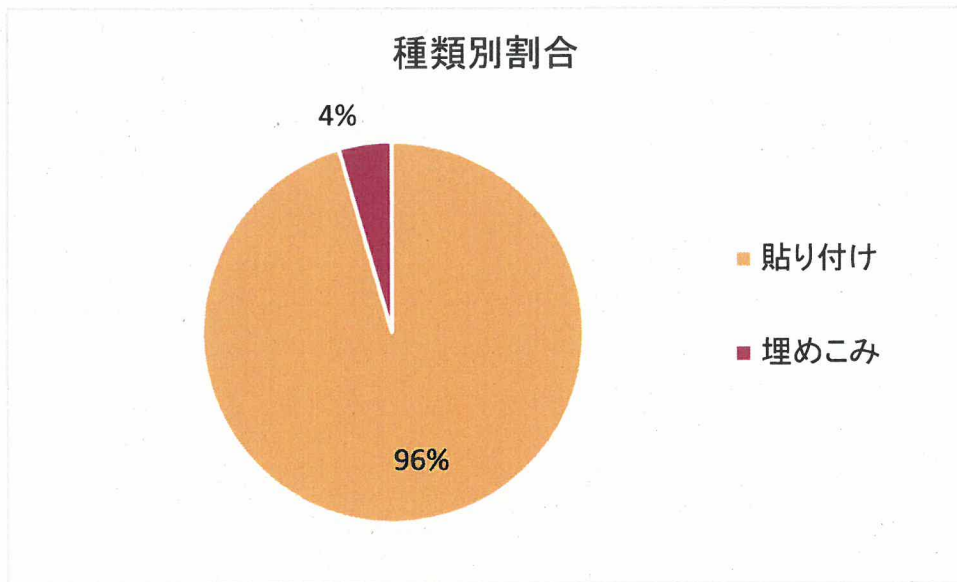


図 2 5 ③の誘導用ブロック種別別割合

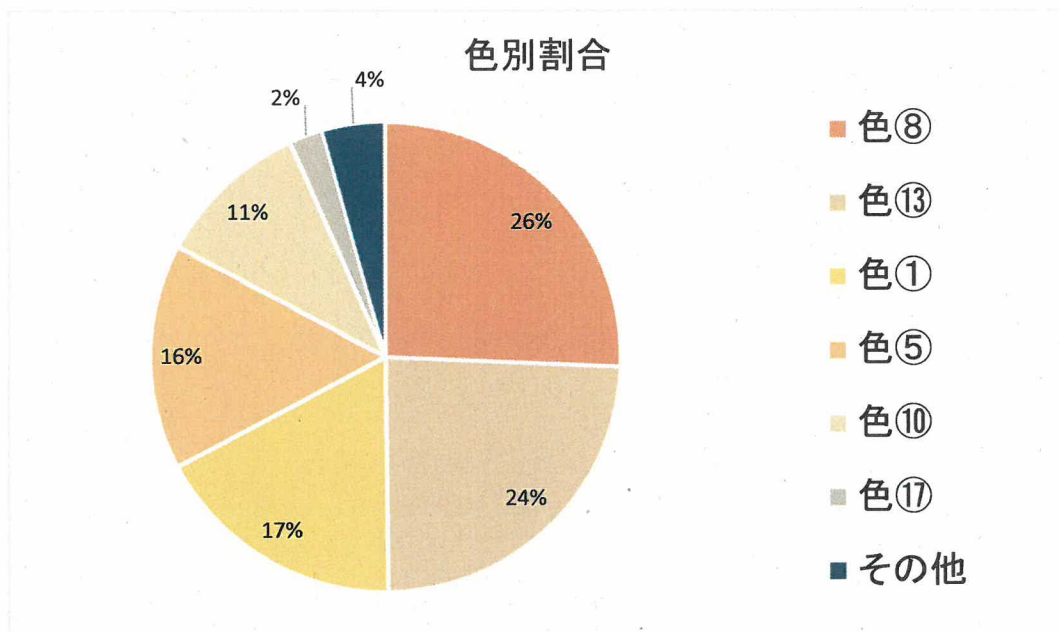


図 2 6 ③の誘導用ブロック色別割合



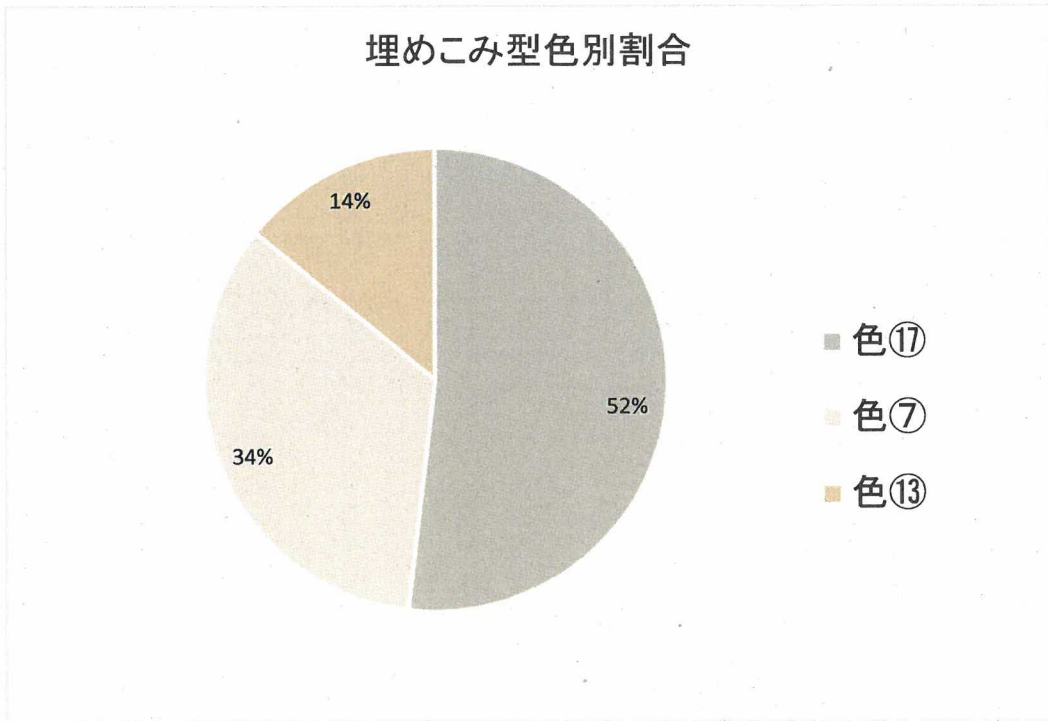


図 2 7 ③の誘導用ブロック埋め込み型色別割合

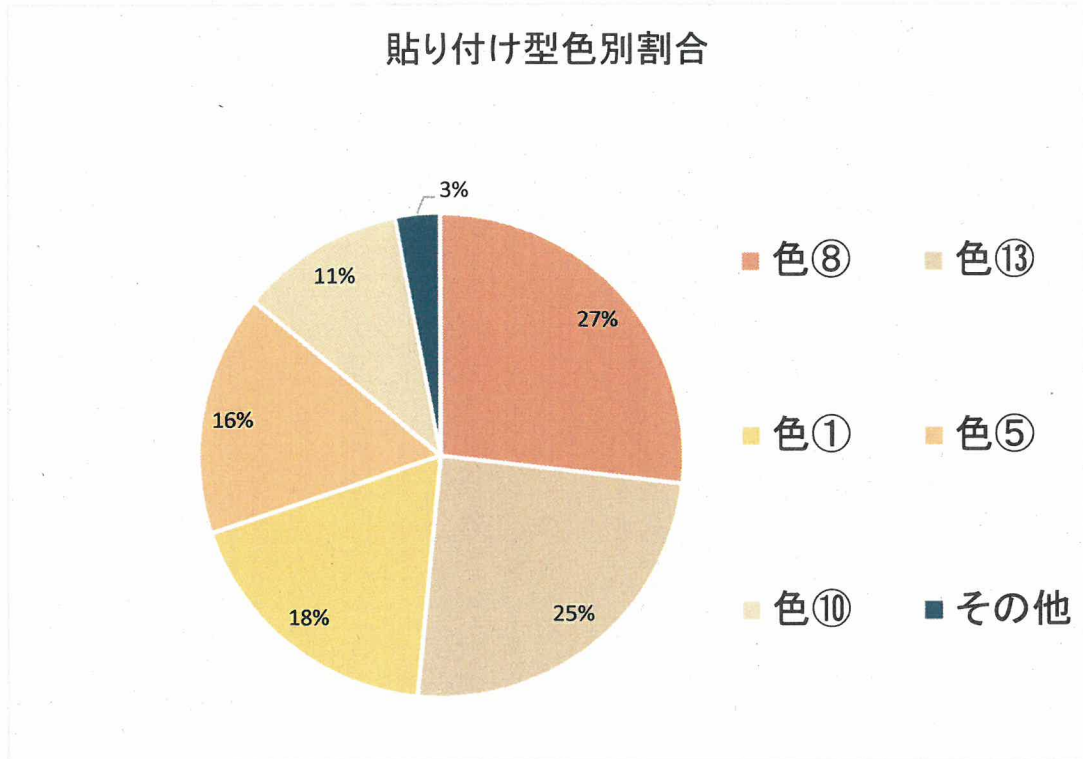


図 2 8 ③の誘導用ブロック貼り付け型色別割合



図 2 9 大坪交差点付近の誘導用ブロック (現地調査をもとに作成)



#### ④中央巡回線

中央巡回線において、誘導用ブロックは約 3,140m にわたり設置されており、種類別でみると、埋めこみ型が約 695m(22%)、貼り付け型が約 2,441m(78%)であった。埋めこみ型の誘導用ブロックは中央学習センター西交差点以西に設置されており、この交差点以東に貼り付け型の誘導ブロックが設置されている。貼り付け型が約 8割を占めており、市役所以東の一町田吉行線及び大坪交差点南側同様、貼り付け型の割合が高いことがこの道路の特徴である。

色別にみると、色⑤約 1,595m(約 51%)、色⑬約 652m(21%)、色⑩約 310m(10%)、色⑰約 172m(5%)、色⑱約 145m(5%)が主である。

横断歩道口の誘導がない箇所について、西条西本町交差点の横断歩道口(南北方向)に誘導ブロックが設置されていない。第Ⅲのとおり、中央巡回線は東広島市移動円滑化基本構想において特定経路に指定されている道路であるため、横断歩道口まで誘導用ブロックを設置することが望ましいと考える。また、仲伏沖交差点の横断歩道口に誘導用ブロックが設置されていなかったが、この交差点付近は現在工事中であるため、一時的に誘導用ブロックが除去されていると考えられる。

誘導用ブロックの摩耗・破損等の箇所は 23 箇所であった。摩耗・破損等が確認できた場所は、ゆめタウン東広島店の駐車場入り口及びアパートの駐車場入り口など車の出入りの多い場所である。一町田吉行線同様、車の出入りが繰り返されることにより、誘導用ブロックが傷んでいることが考えられる。



表9 中央巡回線の誘導用ブロック

合計 3136.7		(m)	
埋めこみ	694.7	貼り付け	2442.0
色⑩	250.4	色⑤	1595.3
色⑰	172.1	色⑬	644.9
色⑱	145.5	色⑩	59.6
色㉔	82.6	色⑫	49.1
色⑰	37.5	色①	38.3
色⑬	6.7	色②	37.0
		色⑭	10.8
		色⑧	7.0

現地調査をもとに作成

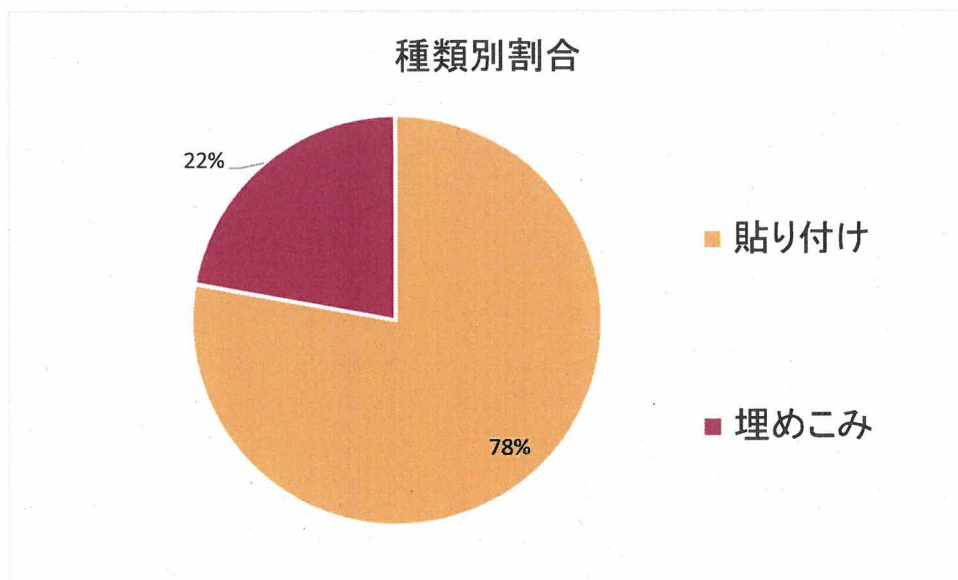


図 3 0 中央巡回線の誘導用ブロック種類別割合

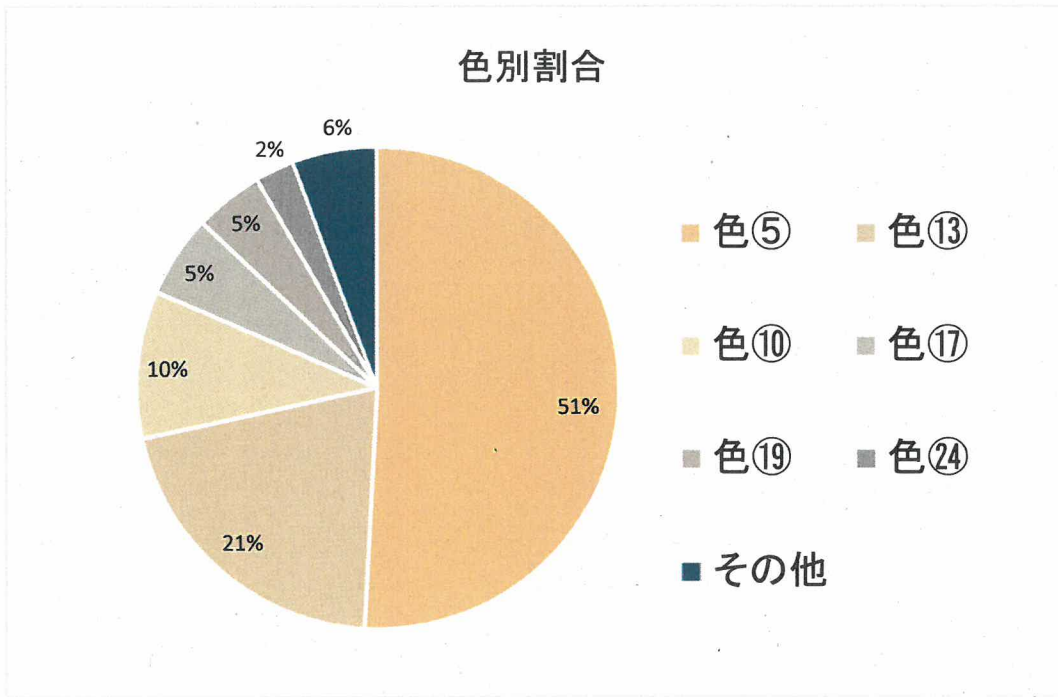


図 3 1 中央巡回線の誘導用ブロック色別割合

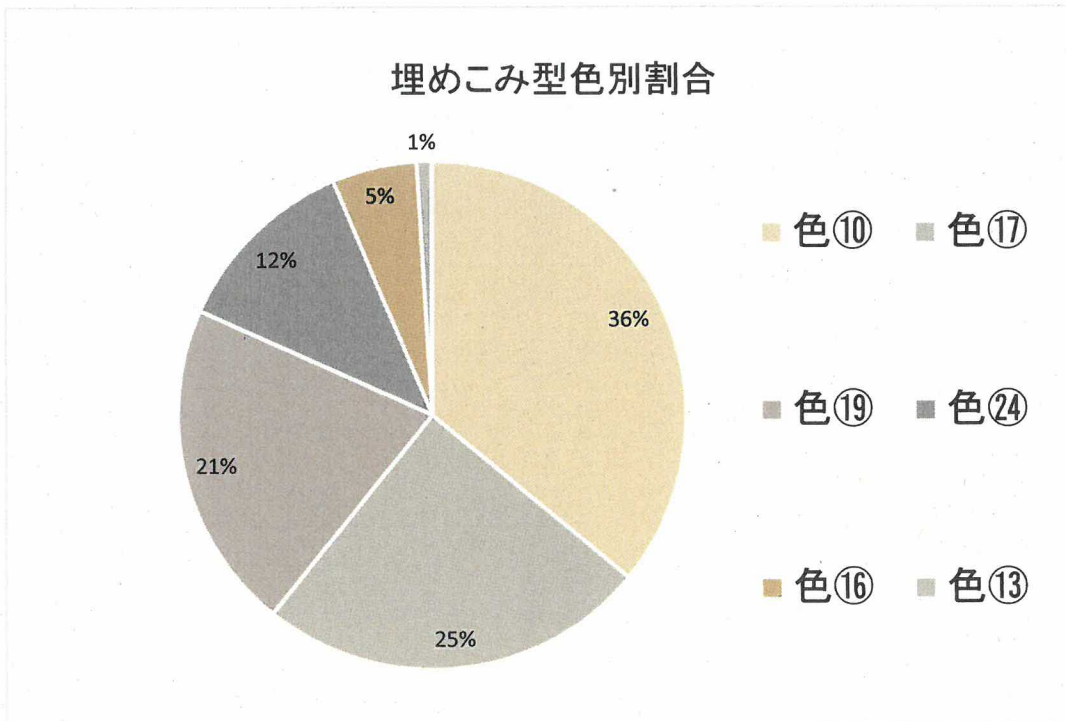


図 3 2 中央巡回線の誘導用ブロック埋めこみ型色別割合

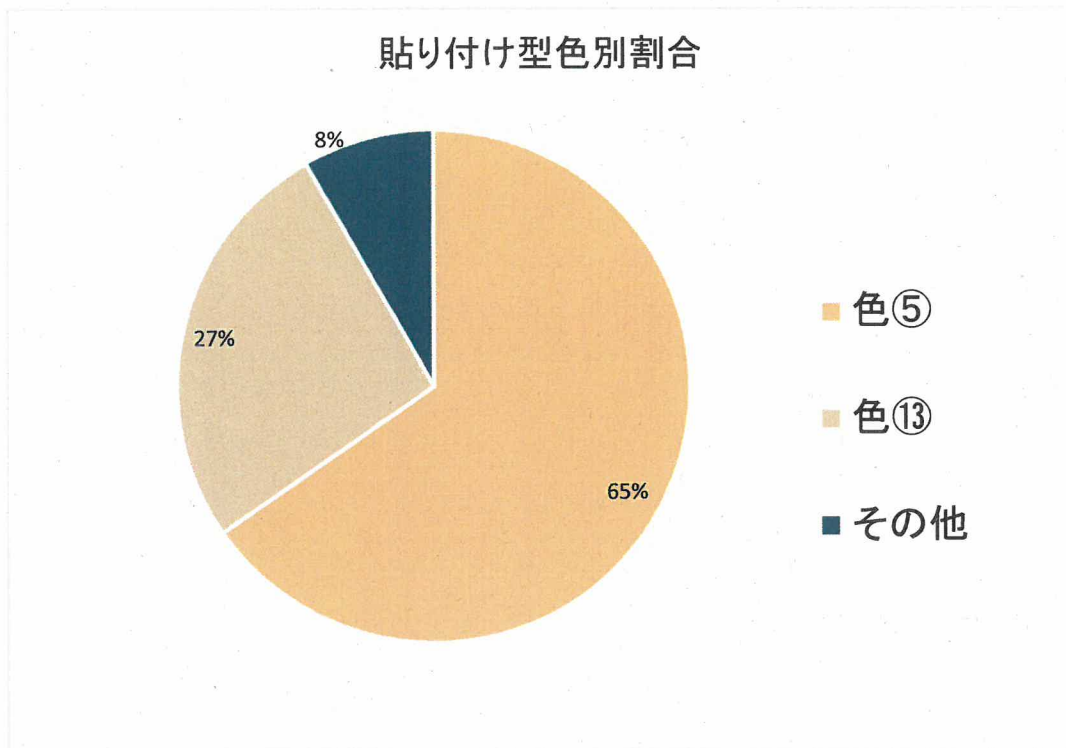


図 3 3 中央巡回線の誘導用ブロック貼り付け型色別割合





図 3 4 ゆめタウン東広島付近の誘導用ブロック  
(現地調査をもとに作成)





図 3 5 西条西本町交差点の横断歩道

(筆者撮影)

⑤黒瀬川⇄江熊交差点⇄西条中央3丁目交差点

誘導用ブロックは1,730mにわたり設置されており、種類別で見ると、埋めこみ型の誘導用ブロックが約1,630m(94%)、貼り付け型が約98m(6%)であった。貼り付け型の誘導用ブロックが設置されている箇所は、コスモス西条中央店入り口や江熊(西)交差点付近のアパート入り口などである。ここらの箇所は、埋めこみ型の誘導用ブロックと連続していることから、元々埋めこみ型のブロックが設置されていた場所が、ブロックの摩耗や破損等により修繕が行われる際、貼り付け型のブロックが設置されたものと考えられる。

色別で見ると、色⑬約1540m(89%)、色㉑91m(5%)、色⑤約46m(3%)、色⑩約30m(2%)、色⑧約21m(1%)である。埋めこみ型の誘導用ブロックに関して、江熊交差点付近のみ色㉑であり、それを除くと、この道路の歩道には、ほぼ全域に色⑬の埋めこみ型ブロックが設置されており、色⑬の埋めこみ型の誘導用ブロックが修繕される際に貼り付け型のブロックが用いられると考えることができる。

誘導用ブロックの摩耗・破損等に関して、15箇所に摩耗・破損等が確認できた。この道路の歩道に設置されている誘導用ブロックの全長が約1,730mであることを踏まえると、摩耗や破損等の箇所が集中しているといえる。

横断歩道口の誘導方向に関して、点状ブロックの誘導方向が誤っている10箇所、線状ブロックの誘導方向が誤っている箇所が6箇所確認できた。なお、その6箇所はいずれも点状ブロックの誘導方向も誤っており、その箇所は、西から順に江熊(西)交差点の北側の横断歩道口2箇所、クニヒロビル付近の交差点の北側の横断歩道口



2箇所、ゲームアーク西条中央店付近の丁字路の横断歩道口2箇所であった。

なお、横断歩道口に誘導はない箇所は5箇所であった。

表10 黒瀬川⇄江熊交差点⇄西条中央3丁目交差点の誘導用ブロック

合計	1728.4		(m)
埋めこみ	1630.9	貼りつけ	97.5
色⑬	1539.6	色⑤	46.0
色⑳	91.2	色⑩	30.2
		色⑧	21.4

現地調査をもとに作成

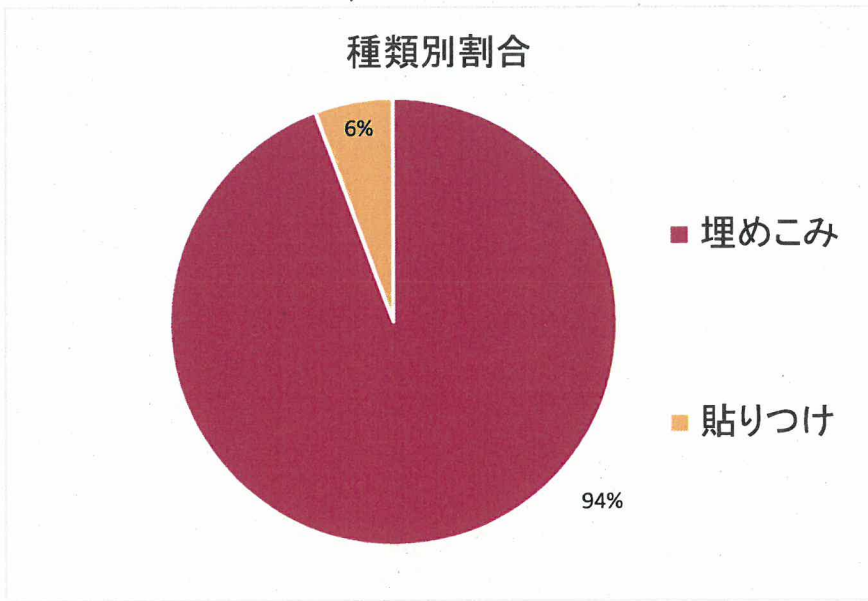


図 3 6 ⑤の誘導用ブロック種別別割合

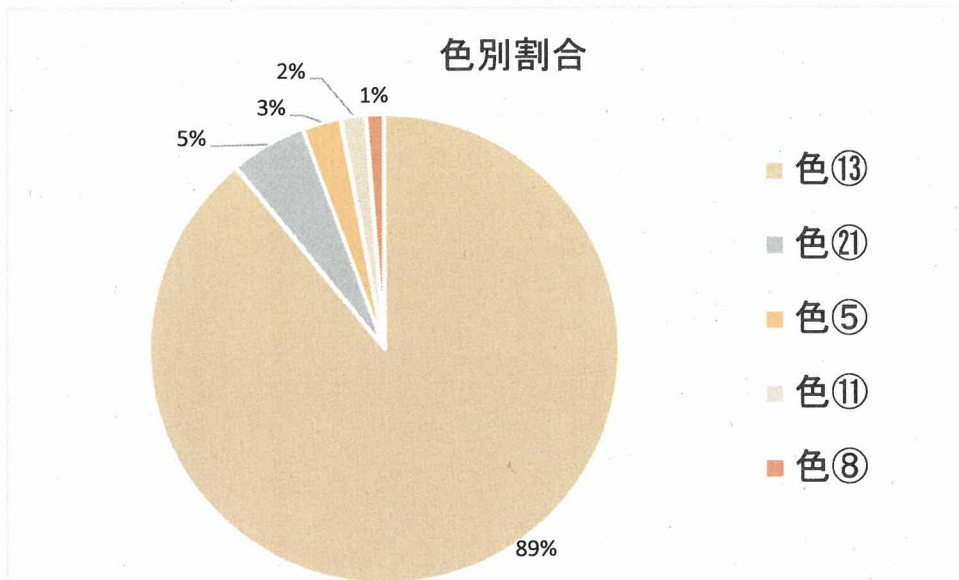


図 3 7 ⑤の誘導用ブロック色別割合



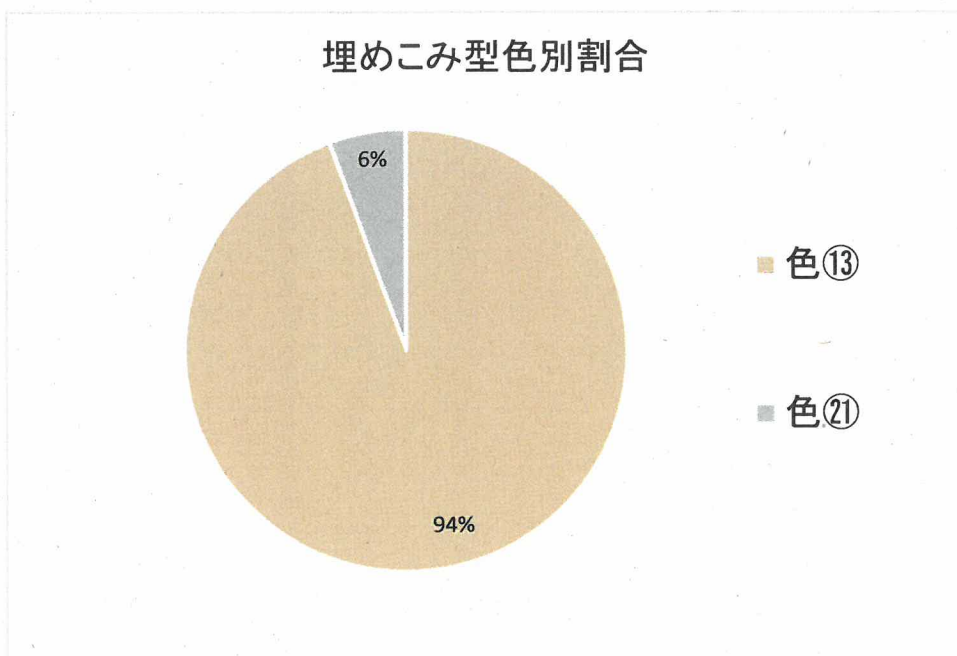


図 3 8 ⑤の誘導用ブロック埋めこみ型別割合

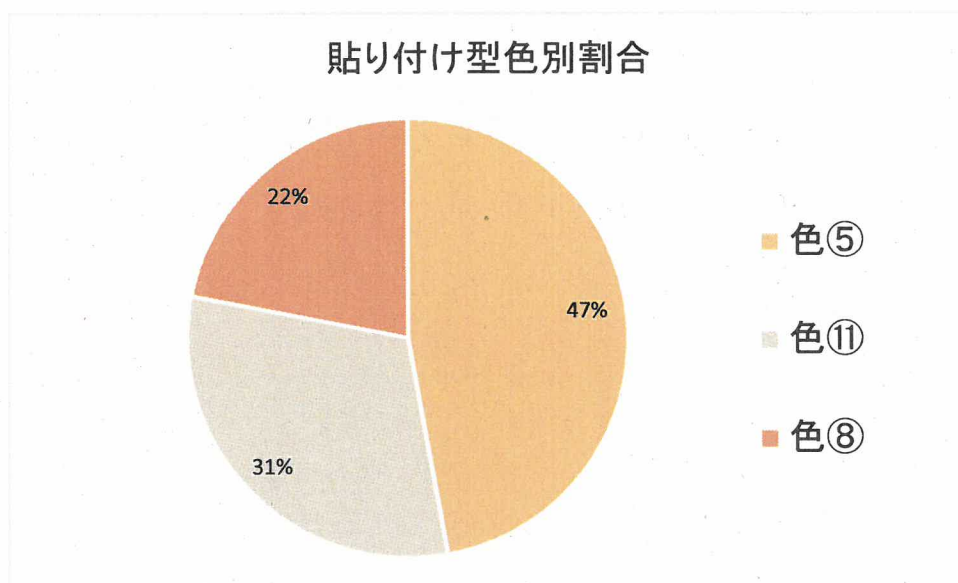


図 3 9 ⑤の誘導用ブロック貼り付け型別割合



図40 江熊(西)交差点の誘導用ブロック (現地調査をもとに作成)





図4-1 ゲームアーク西条中央店付近の丁字路誘導用ブロック (現地調査をもとに作成)



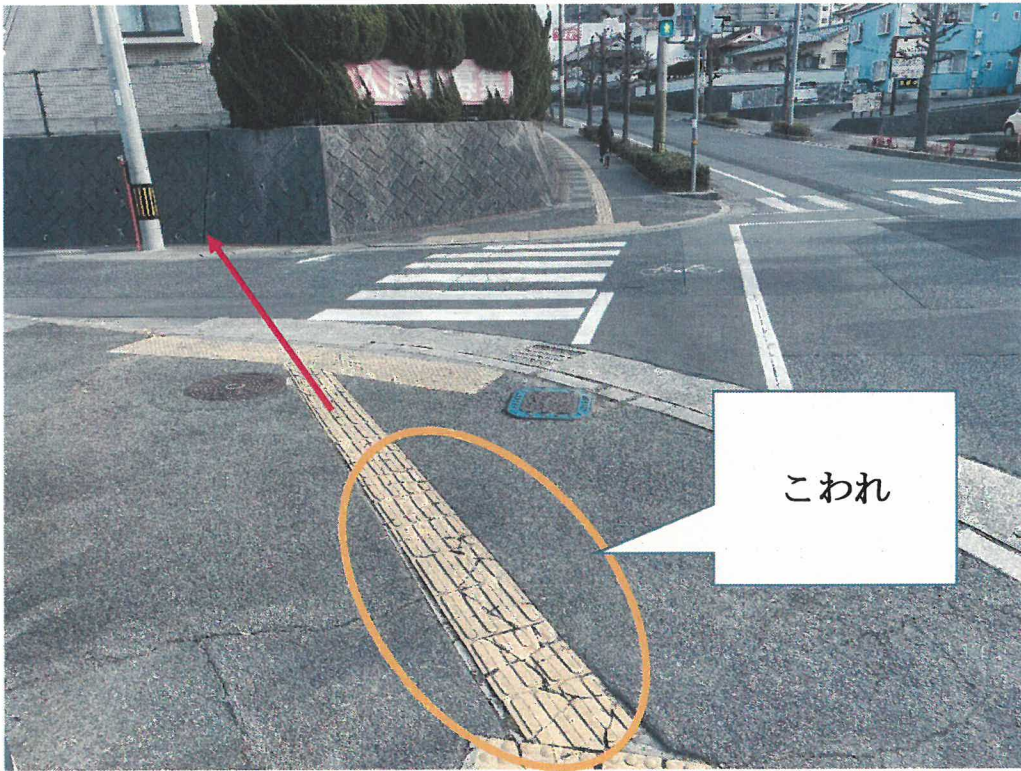


図 4 2 江熊(西)交差点の誘導用ブロック (筆者撮影)



図 4 3 図 4 1 丁字路の誘導用ブロック (筆者撮影)

⑥国道375線(藤田沖交差点⇄御菌宇ランプ交差点)

誘導用ブロックは約6,280mにわたり設置されている。種類別で見ると、埋めこみ型の誘導用ブロックが約3,266m(52%)、貼り付け型の誘導用ブロックが約3,017m(48%)であった。埋めこみ型と貼り付け型がほぼ同じ割合であるのは、西側歩道に主に埋めこみ型の誘導用ブロックが設置され、西側歩道に主に貼り付け型の誘導用ブロックが設置されているためであると考えられる。

色別で見ると、色⑫約1,859m(30%)、色⑭約1,355m(21%)、色⑪約1,297m(21%)、色⑤約869m(14%)、色⑰約260m(4%)、色⑬約201(3%)が主である。埋めこみ型の78%を占める色⑭及び色⑪に関して、元々色⑪であったブロックが汚れにより黒ずみ、色⑭と判別されたと考えられる。種類別の色割合をみると、埋めこみ型の誘導用ブロックは色⑭や色⑪など灰色あるいはほぼ灰色に近い色の割合が高く、貼り付け型の誘導用ブロックは色⑫や色⑤など黄色系の割合が高いことが顕著に表れている。

横断歩道口の誘導方向に関して、線状ブロックの誘導方向に誤りがある箇所は4箇所あることが明らかになったが、そのうち3箇所は円城寺入口交差点の横断歩道口である。なお、残り1箇所は御菌宇(北)交差点の西側歩道の横断歩道口であった。

ブロックの摩耗・破損等が確認できた箇所は吉土実(北)交差点付近の西条食堂入り口の1箇所である。この箇所は駐車場の入り口部分であるため、車の出入りによりブロックが傷んでいると考えられる。



表 1 1 ⑥における誘導用ブロック

合計 6283.4		(m)	
埋めこみ	3266.2	貼り付け	3017.3
色㉑	1354.6	色㉒	1826.7
色⑪	1169.7	色⑤	868.9
色⑰	237.9	色⑩	127.3
色㉓	132.8	色⑬	122.4
色㉔	113.5	色⑧	43.3
色⑬	78.6	色⑰	22.4
色⑱	72.3	色④	6.2
色㉕	50.6		
色⑫	32.5		
色⑦	18.6		
色⑩	5.0		

現地調査をもとに作成

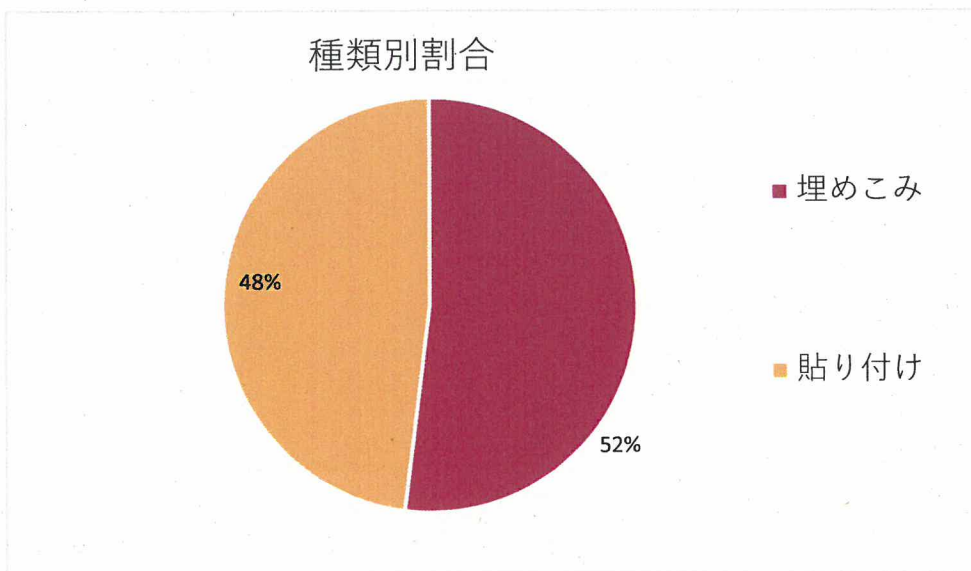


図 4 4 ⑥の誘導用ブロック種別別割合

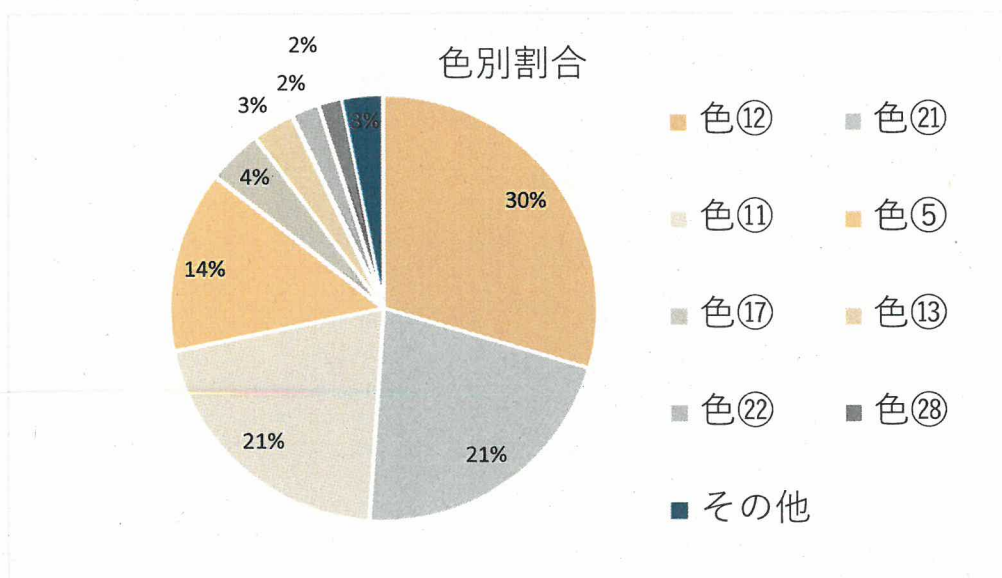


図 4 5 ⑥の誘導用ブロック色別割合



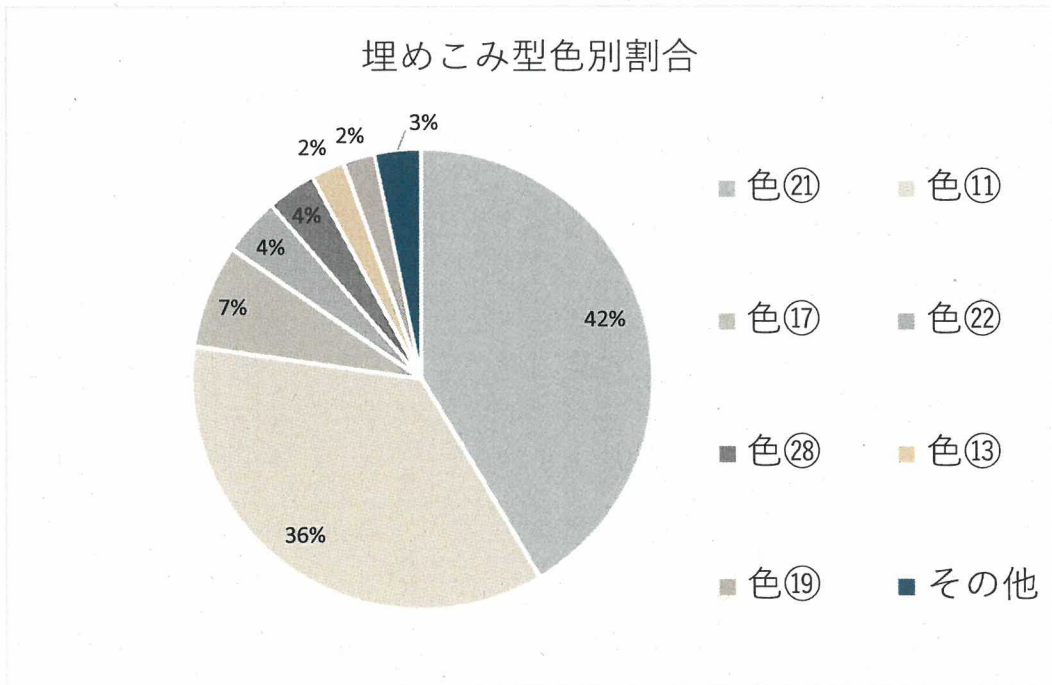


図 4 6 ⑥の誘導用ブロック埋めこみ型色別割合

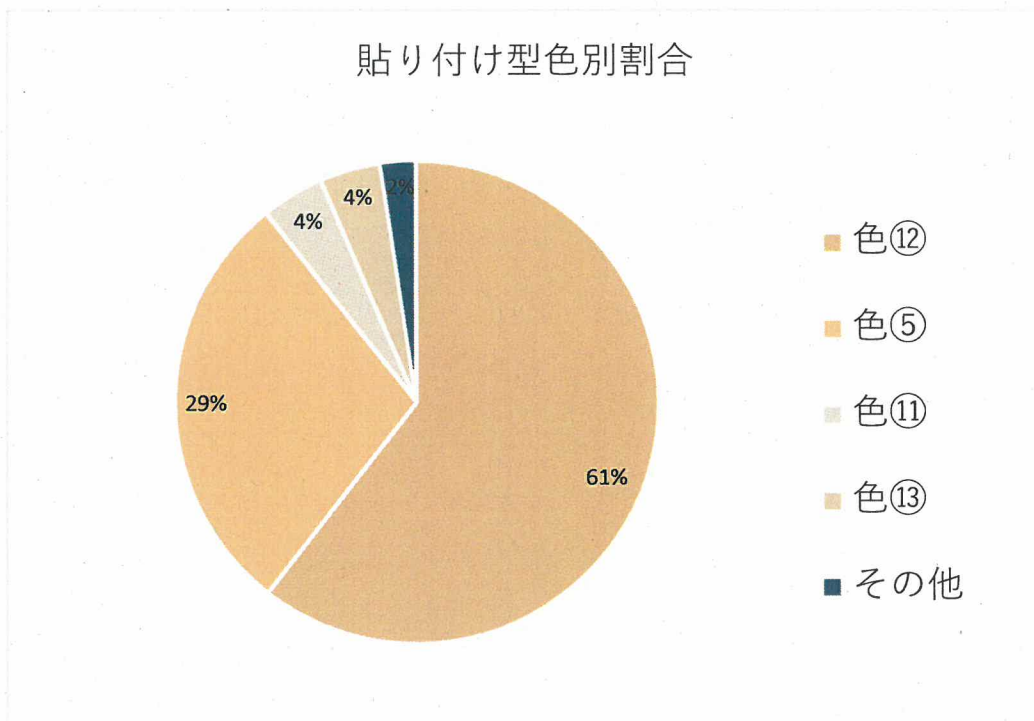


図 4 7 ⑥の誘導用ブロック貼り付け型色別割合



(現地調査をもとに作成)

図4-8 円城寺入口交差点付近の誘導用ブロック





図 4 9 円城寺交差点横断歩道の誘導用ブロック（筆者撮影）





色①のブロック

(図 50)が汚れにより  
黒ずみにより色②  
(図 51)になったと考  
えられる。



図 5 0 (宮の前交差点付近の誘導用ブロック)及び

図 5 1 (土与丸橋南詰交差点付近の誘導用ブロック) 筆者撮影



#### iv 広島大学周辺

誘導用ブロックは約 4,087m にわたり設置されており、種類別で見ると、埋めこみ型の誘導用ブロックが約 3,781m(93%)、貼り付け型の誘導用ブロックが約 306m(7%)である。埋めこみ型の誘導用ブロックは広島大学内郵便局前交差点から下見福祉会館南東の丁字路までの歩道及び吉川西条線下見福祉会館前交差点から下見交差点までの歩道<sup>xxv</sup>に設置されている。また、貼り付け型の誘導用ブロックは主に、広島大学内郵便局前交差点及び広大中央(西)交差点付近に設置されている。

色別にみると、色㉔ 1624m(40%)、色㉓ 905m(22%)、色㉒ 805m(20%)、色㉑ 448m(11%)、色㉐ 239m(6%)、色㉏ 67m(1%)である。広島大学内郵便局前交差点から下見福祉会館南東の丁字路までの歩道の埋めこみ型ブロックは、ほぼ全域が色㉔であり、歩道と同系色であるため、ブロックを認識しづらいことが想定される。

横断歩道口の誘導方向に関して、点状ブロック 22 箇所、線状ブロック 6 箇所の誤りを確認した。誘導方向が誤っている箇所は広島大学内郵便局前交差点、ゆめタウン学園店南西の交差点、下見中央交差点、西条町下見 5 丁目付近の交差点及び下見福祉会館前交差点に集中していることが明らかになった。

ブロックの摩耗・破損等に関して、広島大学内郵便局付近に 2 箇所、広大中央(西)交差点の横断歩道口に 1 箇所、吉川西条線に 1 箇所確認できた。

表 1 2 広島大学周辺の誘導用ブロック

合計 4086.7			
埋めこみ	3780.8	貼り付け	305.8
色㉓	1623.5	色㉑	238.5
色㉒	904.8	色㉐	67.3
色㉔	805.0		
色㉕	447.5		

現地調査をもとに作成

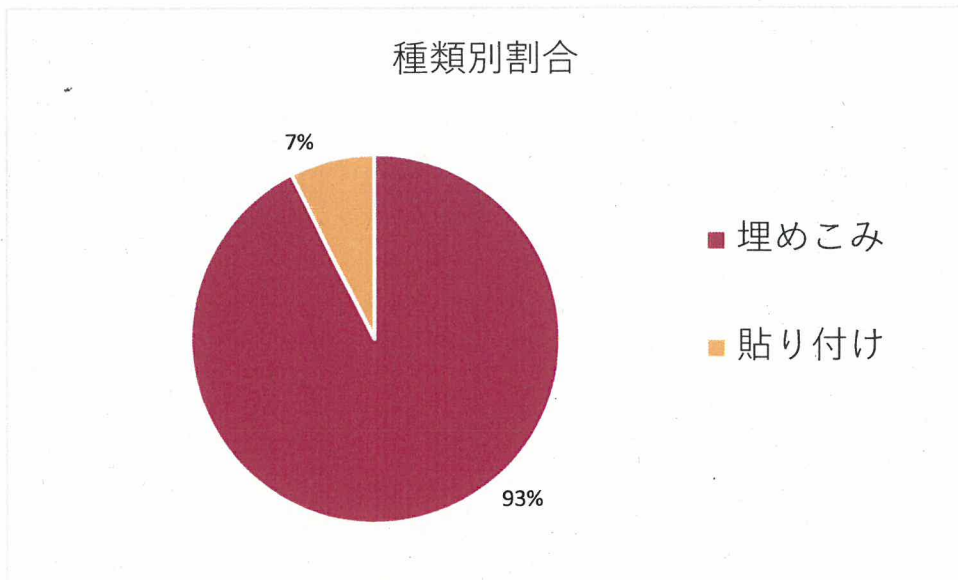


図 5 2 広島大学周辺の誘導用ブロック種別別割合

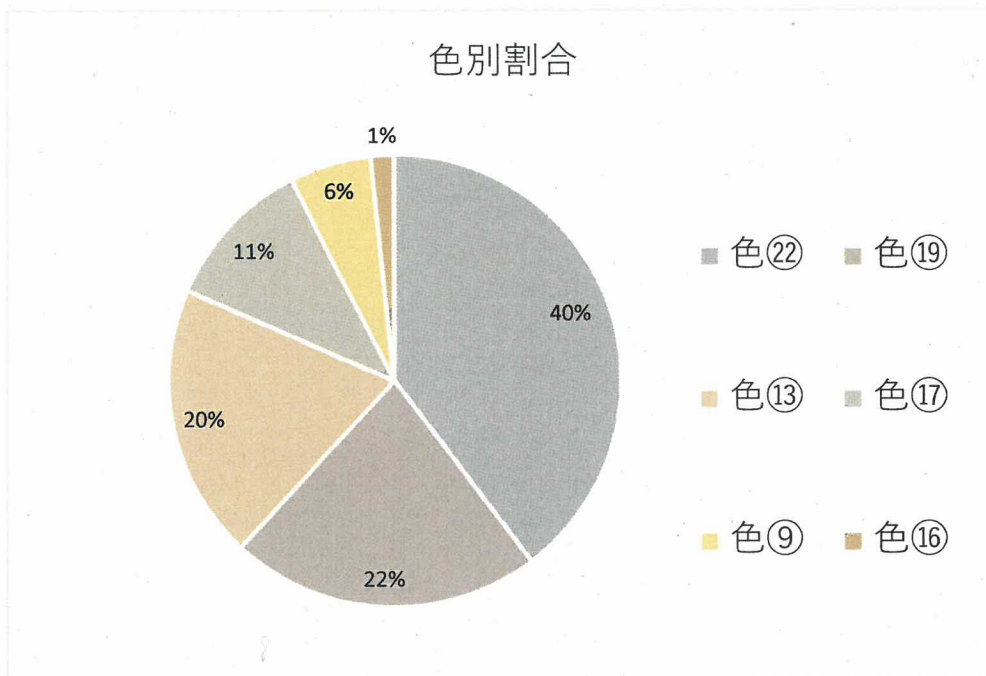


図 5 3 広島大学周辺の誘導用ブロック色別割合

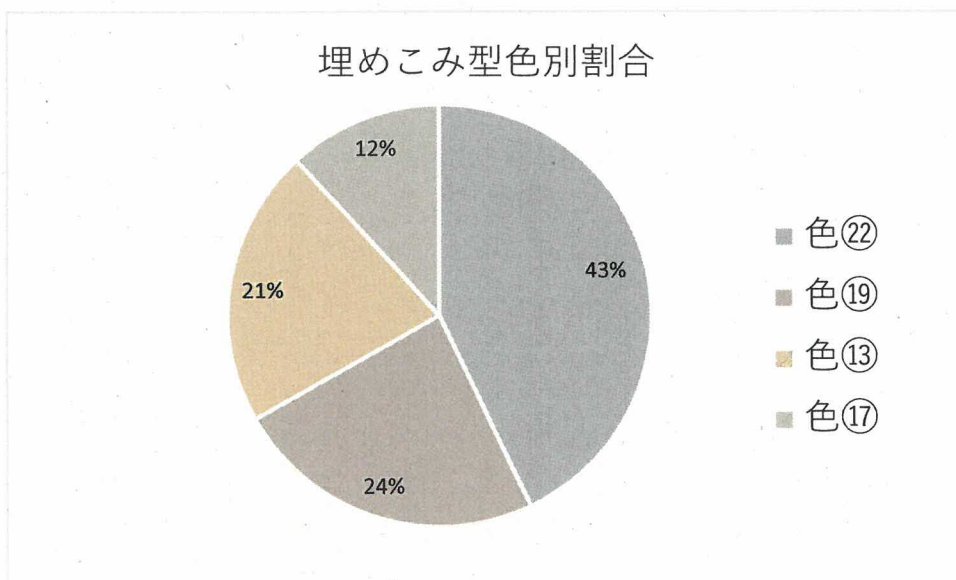


図 5 4 広島大学周辺の誘導用ブロック埋めこみ型色別割合

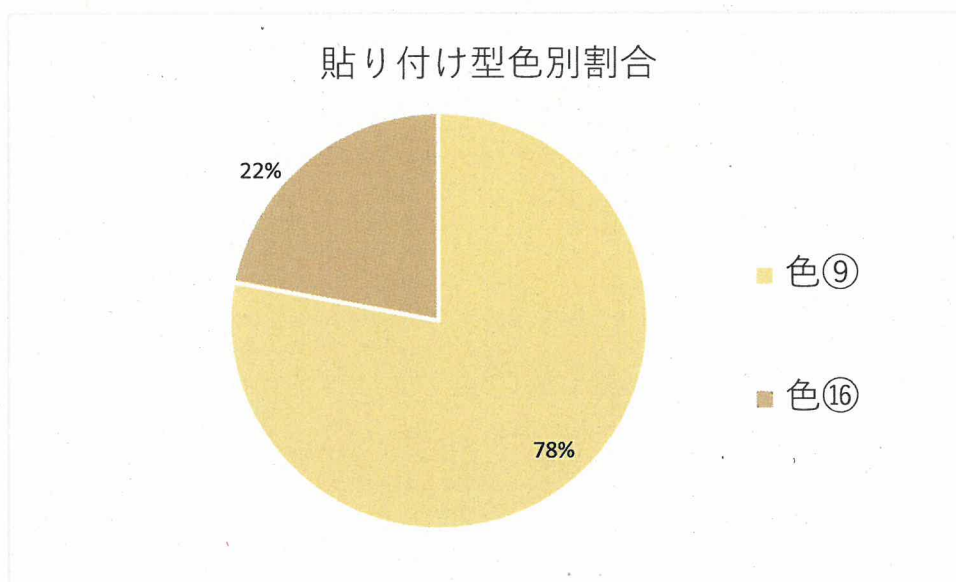


図 5 5 広島大学周辺の誘導用ブロック貼り付け型色別割合

xxv 下見交差点以西の吉川西条線の歩道にも誘導用ブロックは設置されていたが、今回の調査範囲は下見交差点までとした。





図 5 6 広島大学周辺の誘導用ブロック (現地調査をもとに作成)

## v 西高屋駅周辺

今回の西高屋駅周辺の調査範囲において、誘導用ブロックは約2,740mにわたり設置されていた。種類別で見ると、埋めこみ型が約2,250m(82%)、貼り付け型が約500m(18%)であった。

色別で見ると、色⑬が1,750m(64%)、色⑭が369m(13%)、色⑤が260m(9%)、色①が240m(9%)、色⑰が77m(3%)、色㉔が50m(2%)であった。色⑭および色㉔の誘導用ブロックに関しては、もともと色⑬であったブロックが汚れにより黒ずんだためにそのような色として判別されたと考えられる。これらは全て埋めこみ型であり、この3色で埋めこみ型誘導用ブロックの97%を占めている。埋めこみ型誘導用ブロック残り3%の色⑰は、セブンイレブン東広島高美が丘店の入り口2箇所及び杵原中央交差点の橋の上に設置されていた。前者に関しては、元々色⑬であった誘導用ブロックが、コンビニエンスストアへの車の出入りにより摩耗したために、その修復として色⑰のブロックが埋めこまれたと考えられる。色⑤および色①のブロックに関しては全て貼り付け型である。なお、色⑤の誘導用ブロックは全て中島7号線の歩道上に設置されている。第Ⅲ章のとおり、県立広島中学校・高等学校の建設に合わせて中島7号線の歩道は整備されたため、その整備の際、色⑤の誘導用ブロックが設置されたものと考えられる。

横断歩道口の誘導方向に関して、中島交差点の横断歩道を東から西に横断する場所に設置された誘導用ブロックの誘導方向が、自転車横断帯に向かっていった。

ブロックの摩耗は中島7号線西側歩道上の1箇所である。

表 1 3 西高屋駅周辺の誘導用ブロック

埋めこみ	2245.6
色⑬	1749.2
色⑲	369.0
色⑰	76.7
色㉗	50.7
貼りつけ	495.7
色⑤	259.7
色①	235.9
西高屋周辺合計	2741.2

現地調査をもとに作成



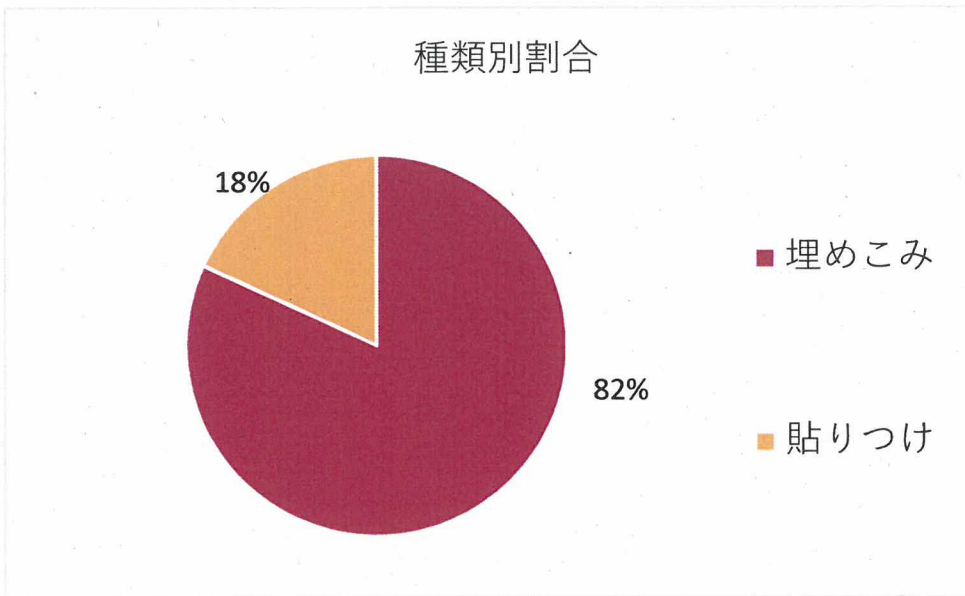


図 5 7 西高屋駅周辺の誘導用ブロック種別別割合

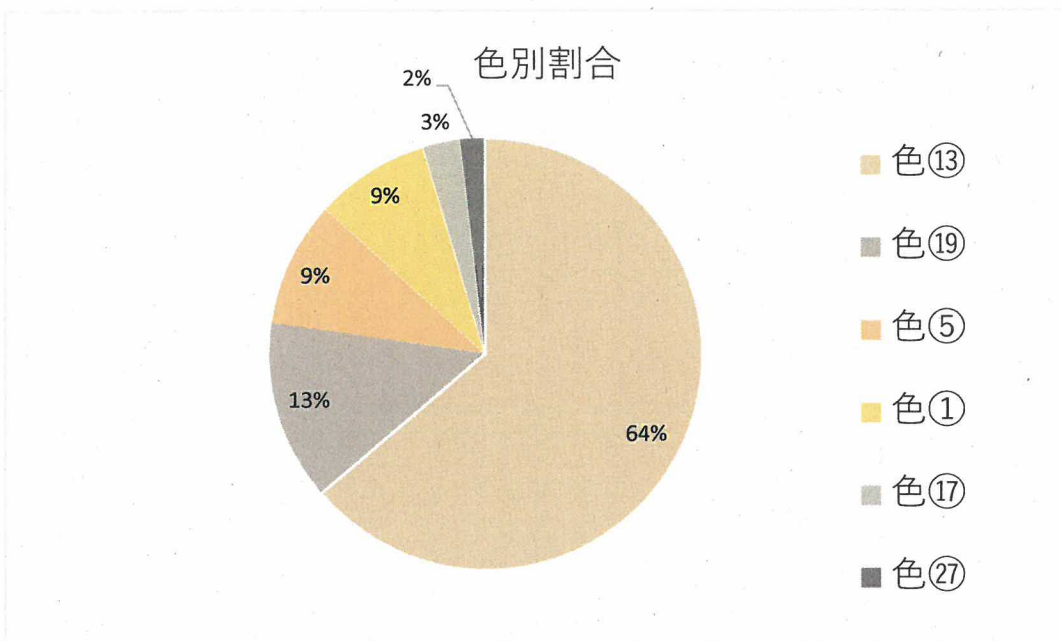


図 5 8 西高屋駅周辺の誘導用ブロック色別割合

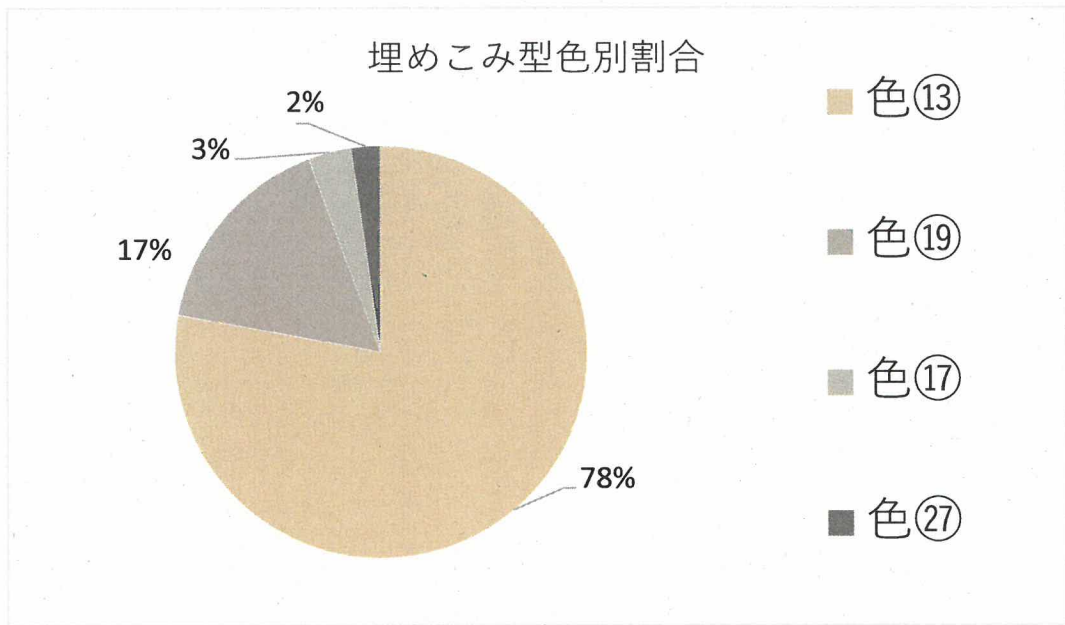


図 5 9 西高屋駅周辺の誘導用ブロック埋めこみ型色別割合

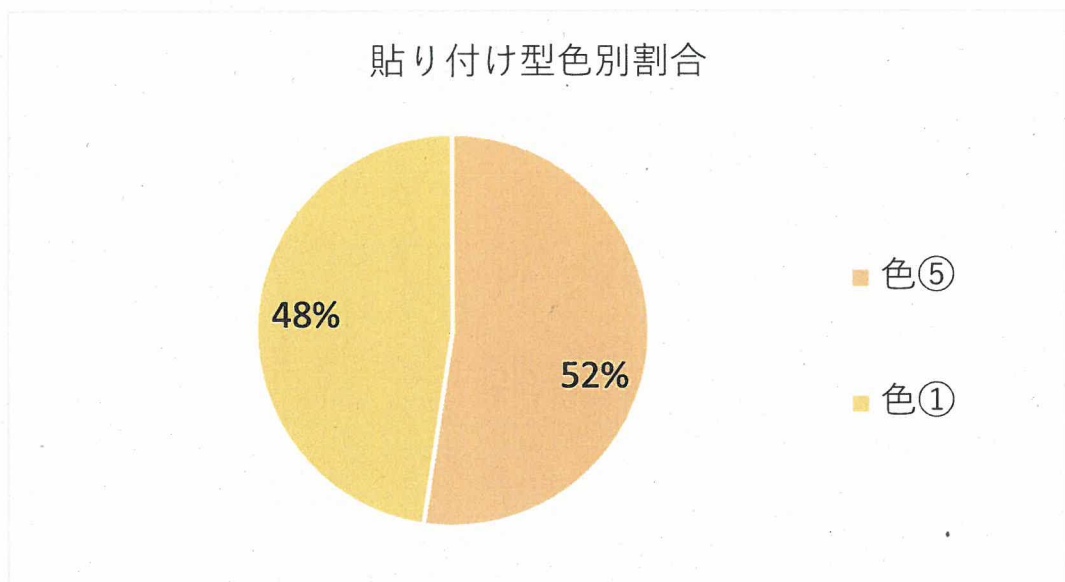


図 6 0 西高屋駅周辺の誘導用ブロック貼り付け型色別割合



図 6 1 西高屋周辺の誘導用ブロック (現地調査をもとに作成)



現地調査にて明らかになったことをもとに、次章において東広島市における誘導用ブロック利用上の課題を考察する。